

第2次奈良市市民参画及び協働によるまちづくり推進計画

令和元年度 事業評価シート
(協働事業)

No.	1	事業名	自治連合会等活動推進					
部名	市民部		課名	地域づくり推進課・各出張所・行政センター				
総合計画上の位置付け	章	第1章	市民生活		① 地域活動の推進 <small>地域住民に対し、奈良市自治連合会と協働して、防災防犯、高齢者支援、子どもの見守りといった様々な地域コミュニティ活動への参加を促し、住民の地域コミュニティへの帰属意識向上に努めます。</small>			
	基本施策	1-01	地域コミュニティ、交流(地域間交流)					
	施策	1-01-01	地域コミュニティの活性化					
相手方の名称	奈良市自治連合会、各地区自治連合会		協働事業の実施手法	補助・助成				
実施の時期	通年		事業開始年度	—				
令和元年度事業費	予算額	14,584	決算額	14,355	(単位：千円)			
事業の概要・目的	地域の対話促進及び地域コミュニティの推進に必要な取組みを行う奈良市自治連合会及び各地区自治連合会へ交付金を交付するとともに、各地区の担当職員である「地域づくりコーディネーター」が地域活動の支援を行う。							
目標指標	指標名	自治会加入率						
	単位	%	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	78.0	79.0	80.0	72.0	72.0
			実績値	75.1	74.1	72.9	71.4	
令和元年度実施計画	これまでに引き続き、奈良市自治連合会及び各地区自治連合会へ交付金を交付するとともに、各地域を担当する「地域づくりコーディネーター」を配置し、地区自治連合会を中心とした地域活動の取組みや、地域の各種団体が連携・協働する「地域自治協議会」の設立を支援した。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目			行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			
5	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。		5	4
4	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。		4	4
3		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4	
2	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。		3	5
1		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		3	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。		5	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。		5	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。		3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。		4	3
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。		4	4
	評価点			37	35

総合点	72
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	市自治連合会、地区自治連合会の活性化を図ることにより、自治会活動等の地域コミュニティ活動が促進され、地域コミュニティの再生の一助になっている。 また、自治連合会の協力により、各自治会への市政情報等の周知を行っている。	毎月地域自治協議会検討委員会を開催し、市とも情報共有を行いながら検討を進めた結果、11地区が市長から地域自治協議会設立の認定を受けるなど、大きく前進することが出来た。また、専門部会を設置し、関係部署と連携して時機に適したテーマを決めて研修を行うことで、地域差の解消や取組み事項のレベルアップが図られた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	地域自治協議会の設立推進について、奈良市自治連合会の地域自治協議会検討委員会と協力・連携することにより、未設立地区へも取組が広がるよう努めていきたい。	行政側での窓口一本化など組織対応、交付金・補助金類の見直し、人的支援など行政としての早期の態勢整備を促す。 さらに、各地区の活動拠点の確保・整備については、地域がまとまっていくための重要な施策であり、所管部署はもとより奈良市としての決断を求めていく。

No.	2	事業名	ボランティアセンターの運営					
部名	市民部		課名	地域づくり推進課				
総合計画上の位置付け	章	第1章	市民生活		① ボランティア・NPO活動の活性化 <small>ボランティア活動の拠点施設として、市民の活動を支援するための奈良市ボランティアセンターの充実を図るとともに、奈良市ボランティアインフォメーションセンターにおいて、より幅広い公益活動に関するきょうけつづくりを推進します。</small>			
	基本施策	1-01	地域コミュニティ、交流(地域間交流)					
	施策	1-01-02	市民交流の活性化					
相手方の名称	(社福)奈良市社会福祉協議会		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成18年度(指定管理者制度導入年度)				
令和元年度事業費	予算額	14,288		決算額	14,268 (単位:千円)			
事業の概要・目的	市民の地域福祉活動への積極的な参加促進を図るとともに、さまざまな分野で広がりを見せるボランティア活動を支援し、やさしさとふれあいのある住みよい奈良のまちづくりを目指す。							
目標指標	指標名	利用人数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	21,400	21,675	21,950	22,225	22,500
実績値	19,904	19,893	22,068	18,448				
令和元年度実施計画	ホームページや、ボラセンだよりを通してセンターと活動団体の紹介を行い、気軽にセンターを利用してもらう。ボランティアインフォメーションセンターとの連携により、相互に利用を促す。また、利用者アンケートを実施し、今後の取り組みを検討していく。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					
5	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。				5	5
4	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。				5	5
3		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					
2	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。				3	4
1		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。				4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。				4	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。				4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。				4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				4	4
	評価点					38	39

総合点	77
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	ボランティアセンターの設置目的である、市民の自主的な参加による自発的な活動の促進、市民福祉の向上について、指定管理者が指定管理料を効果的に配分しながら、自主事業を展開するなど、費用対効果に優れた管理運営を行うことができた。 また、ボランティアポイントの有効活用や、コロナ対応にも適宜話し合いながら進めることができた。	市民の自主的な参加による自発的な活動の促進を目指し、事業展開および管理運営していく中で、有効的なボランティアポイントの活用及び助言をいただいた。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策についても、当館の利用状況等を鑑み相談の上、よりよい対応を提示していただいた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後も市民活動の拡充、グループ間の交流、活動の支援、利用促進、ボランティアセンターとしての機能の整備などについて、一段と積極的な取組が行われることを期待する。また、災害の多い昨今、「災害ボランティアセンター」としての重要性が高まることから、平常時からの各関係機関とのネットワーク化や協力体制作りなどを引き続き継続し、「災害ボランティアセンター」として円滑な運営が実現できるよう努めていただきたい。	多様化する市民ニーズに対応すべく、ボランティア活動および市民公益活動の分野も多岐にわたってきている。指定管理者として行政機関との様々な部署との調整が必要となる中、指定管理者のみで連携調整を図ることは難しく、地域づくり推進課は、他部署との調整を円滑にし、スピーディーに管理運営が営まれるよう行政との橋渡しの窓口を担ってくださり大きな力となっている。

No.	3	事業名	にぎわいのあるまちづくり事業					
部名	総務部		課名	総務課保健所・教育総合センター管理室及びセンター内全課				
総合計画上の位置付け	章	第1章	市民生活		展開方向 ① ボランティア・NPO活動の活性化 協働によるまちづくりを推進するために、市民や自治会などの市民公益活動団体と行政との役割分担を構築し市民相互の活動を支援します。			
	基本施策	1-01	地域コミュニティ、交流(地域間交流)					
	施策	1-01-02	市民交流の活性化					
相手方の名称	JR奈良駅西地区の自治会		協働事業の実施手法	実行委員会・協議会				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成23年度				
令和元年度事業費	予算額	370		決算額	265 (単位：千円)			
事業の概要・目的	地域住民と市職員が協働して「にぎわいのあるまちづくり事業」を実施する。この事業は、市場やコンサート、セミナー等などの集客イベントを実施し多くの市民の方に、はぐみセンターを知っていただき、有効利用していただくこと、地域の活性化を図ること、JR奈良駅西のまちづくりに寄与することを目的とする。							
目標指標	指標名	来館者数の増加						
	単位	千人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	200	210	220	220	220
実績値	204	219	222	214				
令和元年度取組内容	①JR奈良駅西まちづくり運営協議会(地域住民と職員)において、年間事業計画を決定した。 ②にぎわいのあるまちづくり実行委員会(地域住民と職員)により事業を行った。 コンサート5回、市場2回、健康セミナー1回、歴史講座1回、まちづくりセミナー1回、山焼き見学会 (台風の影響により、大文字見学会、新型コロナウイルスの影響により、コンサート1回、にぎわい市場1回は中止となった。) ③実行委員の意見や来場者のアンケートにより事業の評価を行い、来年度の事業計画に繋げた。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価	
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			5
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5	
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5		
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	4	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4	
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	5	
	評価点			41	42

総合点	83
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	地域住民との協働による、コンサート、セミナー、にぎわい市場等の集客イベントにより、施設の有効活用や地域のにぎわい創出に寄与できた。新型コロナウイルスの影響により、3月の2つの事業が実施できなかったため、来館者数は、目標値に達していないが、事業は定着し、協働パートナー間の認識は更に深まった。	地域と行政との立場の違いを乗り越えた協働事業のモデルとして定着している。年度末にコロナ禍の影響により失速状態になったものの、来館者数が漸増傾向にあり一つのバロメーターとして評価できる。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	本年度は、新型コロナウイルスの影響により3月の事業は中止となった。アフターコロナ時代に向け、新たな生活スタイルの変革が求められていることから、協働事業についても、今後に向けてパートナーと共に検討していく。	コロナ時代を迎え、にぎわい創出のためのニューノーマルとは何かなど、そのあり方について議論したい。そして従来の発想から脱却し事業の模索と実践策を編み出していく必要がある。

No.	4	事業名	男女共同参画活動団体協働事業					
部名	市民部		課名	男女共同参画課				
総合計画上の位置付け	章	第1章	市民生活		展開方向 ① あらゆる分野の政策・方針の決定及び実施の場への男女共同参画の推進 男女共同参画の視点を持ち、あらゆる分野で活躍できる女性の人材の育成と活用に努めます。			
	基本施策	1-02	男女共同参画					
	施策	1-02-01	男女共同参画社会の実現					
相手方の名称	女性団体等		協働事業の実施手法	共催				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成17年度				
令和元年度事業費	予算額	1,135		決算額	1,135 (単位：千円)			
事業の概要・目的	男女が互いにその人権を尊重し、喜びも責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮できる社会の実現を市民参画によりめざす。							
目標指標	指標名	「市民講座」の受講者アンケートによる満足度を平成32年度を目標に85%にまで上げる。						
	単位	率(満足度)	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	92	70	75	80	85
実績値	61	66	71	82				
令和元年度実施計画	市民団体及び市民グループ企画の市民感覚から発した「市民講座」とすることで市民のニーズに合った講座を開催し、チラシ・ポスター作成、しみんだよりやホームページへの掲載、マスコミ等への広報を行うことで講座の周知を図る。また、参加率やアンケート結果を踏まえ、次回へとつなげる。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
評価点			42	42

総合点	84
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	協働事業を通じて、より市民に近い目線からそのニーズを汲み取り、事業の企画・立案に生かすノウハウを学ぶことが出来た。	市民講座の協働事業で市民のみさんと学ぶことは、当団体会員に刺激を与えている。
協働することで見た課題や協働相手に対して求めることなど	市民の興味を惹き、参加率を上げることに主眼を置きすぎず、男女共同参画との関係性が深く、市民のニーズに合った講座を企画・実施してもらいたい。	これからも行政のサポートを頂きながら、この協働事業を通して市民のみさんへ団体の活動をPRすることで、会員の獲得にもつながる機会としたい。

No.	5	事業名	地域人権教育支援事業					
部名	市民部		課名	人権政策課				
総合計画上の位置付け	章	第1章	市民生活					
	基本施策	1-03	人権・平和					
	施策	1-03-01	人権と平和の尊重					
展開方向	①	人権教育の推進						
地域における人権教育の推進を図るため、奈良市人権教育推進協議会と協働・連携します。そして、地域活動としての人権学習を通して人権問題への認識を深めることにより、全市レベルでの市民意識向上に努めます。								
相手方の名称	奈良市人権教育推進協議会		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	昭和48年度				
令和元年度事業費	予算額	1,458	決算額	1,458 (単位：千円)				
事業の概要・目的	行政と市民との中間団体である「奈良市人権教育推進協議会」と協働し、地域における人権教育の推進を図り、「奈良市人権文化のまちづくり条例」の具体化を図る。							
目標指標	指標名	活動地区数の増						
	単位	地区	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	40	40	40	40	40
実績値			33	32	32	29		
令和元年度実施計画	運営団体のあり方や地区別研修会、指導者講座、人権講座等の事業実施についての検討を進め、より自主的な活動を行うよう、また、参加者が増えるよう双方協議しながら改善を図った。また参加型の人権講座である「なるほど！人権講座」を引き続き実施し、地域の中で人権啓発のリーダー的存在になれる人材の育成に取り組んだ。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価	
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5	
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5		
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	5	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	4	
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	3	
	評価点			42	41

総合点	83
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	地区別研修会や指導者講座・人権講座等の実施により、地域における人権教育の推進を図り、すべての人が真に尊重される自由で平等な社会の実現と、人と人とのつながりを大切にしたいふれあいのあるまちづくりの実現に向けて、一定の成果が得られた。また昨年度に引き続き、地域の人権啓発のリーダー的存在になれる人の育成を目指す「なるほど！人権講座Ⅲ」を開催することができた。	協働開催することで双方向のコミュニケーションを図りながら事業を推進することができ、地区別研修会や指導者講座・人権講座等を充実させることができた。未実施地区の解消については対象地区への働きかけ（訪問、電話）で一部解消することができた。また事業実施を通して各地区や関係団体との信頼関係の構築に結び付けることが出来た。
協働することで見た課題や協働相手に対して求めることなど	講座内容の充実や地区別研修会等の成果を、いかにして地域における人権教育の推進につなげていくか。また各講座等への参加者を増やすためにいかに広報していくかが課題である。	未実施地区の解消を図るために地区人推協に積極的な働きかけを行なうことが引き続き必要である。また①リーダー養成講座として指導者講座を充実させること、②まちづくりの人権課題を掘り下げることで、実施地区のより自主的な活動を促していきたい。

No.	6	事業名	地域で決める学校予算事業(地域学校協働活動本部)					
部名	教育部		課名	地域教育課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	①	教育内容の充実	
	基本施策	2-01	学校教育			地域教育協議会の強みを生かし、地域と連携した教育活動支援を推進します。		
	施策	2-01-01	特色のある教育の推進					
相手方の名称	地域教育協議会			協働事業の実施手法	委託			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成20年度			
令和元年度事業費	予算額	68,835		決算額	67,475	(単位：千円)		
事業の概要・目的	中学校区を単位として、地域全体で学校を支援し、子どもたちを守り育てる体制をつくり、子どもたちの教育活動の充実と地域の教育力の再生、地域コミュニティの活性化を図る。地域と学校が連携・協働し、中学校区で取組む事業と、各学校園で特色のある教育活動を実施するために取組む事業を全中学校区で実施する。							
目標指標	指標名	会計担当者設置校区数						
	単位	校区	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	13	15	17	19	21
実績値	12	12	13	15				
令和元年度取組内容	これまでに引き続き、各中学校区地域教育協議会に事業委託を行うとともに、研修会の開催、意見交換・情報共有の場の設置等、地域教育協議会と学校が「目指す子ども像」を共有した上で、連携・協働しながら地域全体で子どもを守り育てる体制づくりを支援した。また、平成30年度に引き続き、翌年度の計画について学識経験者等から意見をいただくプレゼンテーションを実施することで、情報共有や各協議会が課題解決に向けて自律的に考える機会となった。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						5	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						4	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						5	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						5	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						4	4
評価点							40	36	

総合点	76
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	各地域教育協議会と学校がめざす「子ども像」を共有することで、地域全体で子どもを守り育てるという意識がさらに高まった。また、子どもたちの学びの場・体験の場がさらに多様になった。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校がパートナーとして、ともに子どもを育て地域を創るという理念の共有、相互の共通理解が進み、前向きな取組を生み出すことができた。 ・子どもたちの教育に関する行政の取組を理解し、地域住民の立場で「地域教育」に関わることができた。 ・常に学び、よりよい形を目指す意識を保つことができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	地域人材の高齢化や固定化、事業を継続していくための次世代の地域人材不足が多く地域でみられる。人材育成を目的とした研修の実施、SNS等による広報活動をより一層強化するなど、地域人材の育成や確保するための工夫が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・事務処理の簡略化および予算の存続。 ・予算の使い方に柔軟性を持たせてほしい。 ・他府県の取組等の情報提供。 ・高齢化や人材不足等、次につなぐ人が見つかりにくい。若い人材・得意分野をもった人材発掘の必要性をより強く感じるため、協力をお願いしたい。 ・他地区の地域教育協議会との交流が必要である。 ・行政には長期を見据えた事業方針を求める。

No.	7	事業名	教育センター学習事業					
部名	教育部		課名	教育支援・相談課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向			
	基本施策	2-01	学校教育					
	施策	2-01-01	特色ある教育の推進					
相手方の名称	ボランティア団体・NPO法人・民間研究大会		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成23年度				
令和元年度事業費	予算額	14,640		決算額	14,188 (単位：千円)			
事業の概要・目的	<p>教育センター9階は、キッズ学びのフロアとして、プラネタリウム等の設備を活用し、ものづくり体験教室や理科・科学実験教室、天文教室等を開催することで、子どもたちの豊かな学びを保障し、創造性や探究心を育て、奈良で学んだことを誇らしげに語り、たくましく生きていこうとする子どもを育成する。</p> <p>平日には学校園を対象としたセンター学習を、休日には親子等を対象とした「キッズホリデークラブ」を実施する。</p>							
目標指標	指標名	民間協力団体数の数(学校、営利企業を除く)						
	単位	団体	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値			9	10	11
実績値			8	8				
令和元年度実施計画	<p>「わくわくセンター学習」では、学習指導要領の改訂に合わせてプログラミング的思考を育成できる「ロボット教室」や、「キッズホリデークラブ」では、未就学児の参加が多いため親子で体験・制作できる実験や工作の講座を充実させていく。また、ボランティア団体、NPO法人、民間研究団体の協力も得ながら講座内容を充実させていく。市民に向けた広報活動として、ポスターやチラシ、HP、SNSなどを活用し、利用者の利便性を向上させる。</p>							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目			行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。		5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。		5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。		4	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。		5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。		5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。		4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。		4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。		4	5
評価点				41	43

総合点	84
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価	A				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	協働によって、行政と民間団体が担うそれぞれの役割について相互理解を深めることができた。	市や市民に自分たちの取組を知ってもらいよい機会となった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	役割分担をするまでの事前調整が難しい。行政主導をなっ てしまいがちである。	より多くの方に参加してもらえるように開催回数や開催時期などに改善の余地がある。

No.	8	事業名	学校規模適正化検討協議会との協議					
部名	教育部		課名	教育政策課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	⑤	施設配置の適正化及び施設の長寿命化の検討	
	基本施策	2-01	学校教育			小学校・中学校の規模適正化を実施します。		
	施策	2-01-03	義務教育の充実					
相手方の名称	保護者・地域代表・学校関係者		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成20年度				
令和元年度事業費	予算額	92,493		決算額	21,582		(単位：千円)	
事業の概要・目的	奈良市学校規模適正化実施方針及び中学校区別実施計画等に基づき、対象地域において市立小・中学校の規模適正化の推進に向け協議し、地域性等を考慮した個性や特色ある学校づくりをめざす。							
目標指標	指標名	規模適正化を必要とする小・中学校						
	単位	校	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	7	4	4	4	4
実績値	7	4	4	4	4			
令和元年度取組内容	統合再編の対象となっている平城西中学校区については、開校に向け、右京小学校・神功小学校の児童を対象にワークショップを開催し、また、両地域から成る新しい学校づくりのための「平城西中学校区新小中一貫教育学校開校準備委員会」において、協議を行った。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	3	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	3	3
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	3
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	4
評価点			37	36

総合点	73
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	令和3年4月開校を目指す新しい学校の「基本構想」及び「学校のイメージ」について「平城西中学校区新小中一貫教育学校開校準備委員会」の中でも議論していただき、リーフレットを対象地域に全戸配布することで新しい学校のイメージを持ってもらうことができた。	両地域の保護者・地域住民・学校関係者で構成された「平城西中学校区新小中一貫教育学校開校準備委員会」を立ち上げ、新しい学校について市と協議することができた。また、行政と協働することによって平城西中学校区全体に広く情報発信できるようになった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	新しい学校についての様々な思いやニーズは多岐の分野に渡ることから、今後、関係部署との連携を一層強化し、横断的に対応していく必要がある。	行政との協働を通じて明らかになった課題に対応し、開校に向けた取組をさらに進めていく。

No.	9	事業名	放課後子ども教室推進事業					
部名	教育部		課名	地域教育課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化	展開方向 ② 地域の教育力の充実 各小学校区においても、学校・家庭・地域が連携・協働し、子どもたちの安全・安心な居場所を設け、地域ぐるみで子どもを育てる仕組みづくりを進めます。				
	基本施策	2-02	青少年の健全育成					
	施策	2-02-01	青少年の健全育成					
相手方の名称	各小学校運営委員会		協働事業の実施手法	委託				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成19年度				
令和元年度事業費	予算額	20,202	決算額	19,110 (単位：千円)				
事業の概要・目的	子どもたちが地域社会の中で、心豊かに健やかに育まれる環境づくりを推進するため、放課後等に小学校の余裕教室等を活用し、地域の方々の参画を得て活動を進める。勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を、全小学校区で実施する。							
目標指標	指標名	放課後子ども教室の年間実施日数						
	単位	日/校	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	33	34	34	35	35
実績値	31	31	31	27				
令和元年度取組内容	これまで引き続き、各小学校運営委員会に事業委託を行うとともに、研修会の開催、意見交換・情報共有の場の設定等、各運営委員会、小学校、バンビーホームと連携・協働しながら子どもたちに多様な教育活動を提供するための支援をした。ただ、授業時数の増加、新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る事業の中止等により、実施日数は27日となった。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	対等性						
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。				5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。				4	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。				5	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。				4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。				4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。				5	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				4	4
評価点					40	38	

総合点	78
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	コーディネーターやボランティアなど地域人材の参画により、スポーツや学習・伝統文化等さまざまな分野の活動の機会を提供することができた。また、地域全体で子どもを見守り、育てると意識が広がってきている。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの多様な体験の場が設定でき、居場所づくりを進めることができた。子どもたちも生き生きと活動し、やる気につながる様子が感じられた。 地域や保護者、学校の思いを行政に知ってもらい、実現に向けて協力を得ながら皆が一体となって具体的な取組を進めることができた。 地域の人の参画体制が少しずつ確立され、地域ぐるみで子どもを育てる輪が広がった。 市の方針や事業に対する理解を深めることができ、地域住民が協力して「地域教育」に関わることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	地域人材不足が、多くの運営委員会で課題となっている。SNSや報道機関等を利用した広報活動の強化や、人材育成を目的とした研修を実施する等の工夫が必要である。また、事業運営の自律化をすすめるための工夫を共に考えていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> 予算の使い方について柔軟性を持たせてほしい。 事務処理の簡略化。 地域人材の高齢化や固定化が課題。新しい人材発掘への協力をお願いしたい。 バンビーホームとの連携強化。 地域で子どもを育てることが住民の安心した生活に繋がるとを、より多くの市民に伝え、参画してもらえるよう、事業について強く発信してほしい。 長期を見据えた事業方針を求める。 地域の自律化を促進するためにも、引き続き研修等、人材育成が必要。 他地域の取組や出前授業等の情報提供。

No.	10	事業名	青少年野外体験施設の運営管理					
部名	教育部		課名	地域教育課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	③ 青少年健全育成活動の推進 青少年が健やかに成長できる体験の場所や機会を提供します。		
	基本施策	2-02	青少年の健全育成					
	施策	2-02-01	青少年の健全育成					
相手方の名称	①奈良市黒髪山キャンプフィールド運営協議会 ②特定非営利活動法人 奈良地域の学び推進機構		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	①平成18年度(指定管理者制度導入年度) ②平成21年度(指定管理者制度導入年度)				
令和元年度事業費	予算額	29,055		決算額	28,645 (単位：千円)			
事業の概要・目的	自然環境の中での野外活動、レクリエーション等を通じて青少年の心身の健全な育成を図ることを目指す。							
目標指標	指標名	利用者数の増加						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	12,040	12,080	12,120	12,160	12,200
実績値	12,279	12,497	11,888	10,881				
令和元年度実施計画	指定管理者と協議・連携し、快適な施設と魅力的な事業の提供に努めるとともに、広報の在り方について創意工夫し、利用者数の増加を目指す。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目			行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			
5 ← ← → → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しできた どちらとも書えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。		4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。		5	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。		4	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		3	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。		4	3
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。		4	3
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。		3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。		3	3
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。		4	3
評価点				36	32

総合点	68
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	指定管理者の経験やノウハウを施設の管理運営に活かすことで、快適で安全な施設の提供が出来た。また、行政としてもホームページやしみんだよりに掲載するなど広報面で協力が出来た。	前年度に引き続き行った櫛枯れ伐採は予算をつけて完了した。自動販売機は撤去後に再設置した。利用者アンケートを実施し、その意見を施設の運営の改善等に反映させている。青少年対象の自主事業を充実させることにより、リーダーの増加が見込まれるプログラムを開発している。奈良市HPやしみんだより独自のHPを利用した情報発信を行い、幅広く市民を目に触れる工夫をし、利用者数の増加を目指している。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	利用者の固定化が見られるため、新規の利用者を増やす必要がある。利用者アンケートを基に要望に応えられるよう、指定管理者と協議・連携し、広報の手法を工夫し効果的なPRを行っていく。	当施設を安全に快適に使用していただくために、老朽化の対策が必要な項目を上げたが予算が付かず、委託費から捻出し応急的な対応を行った。だが、恒久的な対策が必要である。コストパフォーマンスを意識しながら、適正な施設整備・維持管理に努めているが、施設設備等において老朽化の著しい部分が散見され、利用者及び施設職員等の安全確保に苦慮している。

No.	11	事業名	公民館の運営管理	
部名	教育部		課名	地域教育課
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化	
	基本施策	2-03	生涯学習	
	施策	2-03-01	生涯学習の推進	
			展開方向	① 生涯学習活動の推進 <small>地域の課題解決に向けた学習活動を含め、市民の多様な学習に対応できる幅広い内容や人材の確保、機会の充実に努めます。</small>
相手方の名称	公益財団法人奈良市生涯学習財団		協働事業の実施手法	指定管理
実施の時期	通年		事業開始年度	平成18年度(指定管理者制度導入年度)
令和元年度事業費	予算額	603,400	決算額	603,400 (単位：千円)
事業の概要・目的	いつでも、どこでも、だれでも学べる学習環境の醸成と整備を促進するとともに、学びの成果が活力ある地域づくりにつながる生涯学習活動を推進する。また、市民の生涯学習活動の拠点となる公民館を管理し、市民が健康かつ豊かな生活を送ることができる機会を提供する。			
目標指標	指標名	利用者数の増		
	単位	人	年度	H28 H29 H30 R1 R2
			目標値	610,000 620,000 630,000 640,000 650,000
実績値	591,696 610,304 557,845 538,540			
令和元年度実施計画	公民館の事業展開及び施設運営について、市の方針を共有し、協議を行いながら、市民の多様なニーズに応える各種事業を計画・提供するとともに公民館の管理運営を行う。また、地域課題を抽出し解決に向けた取組を行うため、地域とのつながりを重視し、情報共有に努めると共に若年層の学習活動支援を推進する。			
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由		



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。			3	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。			4	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。				
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。			2	3
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。				
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。			4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。			4	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。			4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。			3	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。			3	5
評価点					30	37

総合点	67
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	幅広い分野の団体と連携し、市民のニーズに沿った多様な事業を実施することができ、市の生涯学習推進につながった。	市の所管課とこまめに連絡調整や協議を行い、市の方針を共有しながら公民館の事業展開及び施設運営に当たることができた。
協働することで見た課題や協働相手に対して求めることなど	協働相手が行政に依存せずに運営ができるよう、自立化に向けた方策を共に検討する必要がある。	今後も、市民の多様なニーズに応える事業の計画・実施に向けて、より一層、協働を進めていきたい。また、老朽化する施設・設備などについても情報共有を行いながら、安全で使いやすい施設運営に努めたい。

No.	12	事業名	おはなし会					
部名	教育部		課名	中央図書館				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向 ② 子どもの読書活動の推進 子どもの読書活動に関わる環境の整備・充実に努めます。			
	基本施策	2-03	生涯学習					
	施策	2-03-02	図書館の充実					
相手方の名称	ボランティア		協働事業の実施手法	共催				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成20年度				
令和元年度事業費	予算額	590		決算額	340 (単位：千円)			
事業の概要・目的	図書館において「おはなし会」を開催し、絵本の読み聞かせ・おはなし・パネルシアター・人形劇などを通して、物語などのすばらしさを伝え、子どもの想像力と豊かな感性を育むとともに、読書への興味へと導いて、子どもの健全育成を図る。							
目標指標	指標名	参加人数						
	単位	参加人数	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800
実績値	1,590	1,446	1,053	1,476				
令和元年度実施計画	図書館において「おはなし会」を開催し、絵本の読み聞かせ・おはなし・パネルシアター・人形劇などを通して、物語などのすばらしさを伝え、子どもの想像力と豊かな感性を育むとともに、読書への興味へと導いて、子どもの健全育成を図る。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも言えない できなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	3
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	3	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	4
評価点			33	34

総合点	67
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	絵本の読み聞かせだけでなく、パネルシアターなど様々なイベント内容で開催できた。	多くの子ども達に絵本の読み聞かせ、ストーリーテリングなどを通して、読書への興味を広げることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	図書館が本来行うべき事業であるが、協働することにより、より多く開催できている。より多く利用者のニーズに応えるためには、協働できる相手を増やしていく必要がある。	協働することにより、スキルを磨く機会などを多く作ってもらいたい。

No.	13	事業名	市民考古サポーター活動事業					
部名	教育部		課名	文化財課埋蔵文化財調査センター				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向 ① 文化財の保護・啓発 文化財保護に関わるボランティア・市民活動などとの連携を促進する。			
	基本施策	2-04	文化遺産の保護と継承					
	施策	2-04-01	文化遺産の保存と活用					
相手方の名称	寧楽考古楽倶楽部		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成21年度				
令和元年度事業費	予算額	72		決算額	20 (単位：千円)			
事業の概要・目的	寧楽考古楽倶楽部は、平成20年度「市民考古サポーター養成講座」の修了者が組織した団体で、発掘調査・遺物整理・展示公開・講演・説明会等、埋蔵文化財調査センターが行う考古学的調査研究、保存活用事業に参加支援し、考古学を自由な立場で楽しみながら学び、その活動を通じ文化財保護へ寄与してもらう。							
目標指標	指標名	市民考古サポーターの人員維持						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	85	85	100	102	104
実績値	93	99	106	108				
令和元年度実施計画	市の事業計画に対応する形で、2ヶ月毎に活動計画を策定し、遺物整理・展示公開・講演会・市民考古学講座・職場体験学習・発掘調査体験学習を実行する。その後各事業ごとに協働内容を確認し、意見・要望を整理したうえで、倶楽部の役員会において担当職員と役員で今後の方向性等を協議する。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	4
評価点			43	41

総合点	84
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	多彩な埋蔵文化財の活用事業について、職員と市民考古サポーターとの事前研修を行うことにより、お互い学び合い、専門性の高い活用事業を行うことができた。また、倶楽部内で2本の自主研究会が立ち上り、文化財保護に対する関心が一層高まった。	センターのご指導を得て、市民考古サポーターの自主的な活動である「研究会」を、新たに2つ立ち上げることができた。また、倶楽部創立10周年に当たり、これまでの活動を取り纏めた記念誌を発行することができ、奈良市から善行表彰されることに繋がったと考える。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後も活用事業に応じた協働の機会と内容の充実を図る一方、新型コロナウイルス感染防止など、健康にも十分留意して協働していきたい。	倶楽部会員数が100名を超える大世帯となったため、サポーターが遺物整理他に参加できる1人当たりの機会が減っている。各作業において先輩サポーターが、新人サポーターを指導する体制は定着しつつあると思う。今後は、センター業務への更なる貢献とサポーターの考古学関係知識が広がるように、補助作業の範囲を広げたいと考えます。そのために基礎的な知識及び、技能の習得に向けたご指導をお願いしたい。

No.	14	事業名	文化財講座					
部名	教育部		課名	文化財課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化					
	基本施策	2-04	文化遺産の保護と継承					
	施策	2-04-01	文化遺産の保存と活用					
			展開方向	① 文化財の保護・啓発 <small>市民が奈良の歴史文化を知る機会となる文化財活用普及啓発事業の充実を図ります。</small>				
相手方の名称	文化財関連団体、公益財団法人奈良市生涯学習財団(都跡公民館)等		協働事業の実施手法	共催				
実施の時期	年2回		事業開始年度	共催での実施は平成27年度から				
令和元年度事業費	予算額	191	決算額	155 (単位：千円)				
事業の概要・目的	市民に広く奈良の文化財を周知し、理解と関心を深めてもらい、保護や活用に積極的に関わる契機として、体験学習・見学等を組み合わせた講座を開催する。							
目標指標	指標名	協働での実施回数						
	単位	回	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	3	2	2	2	2
実績値	3	2	3	1				
令和元年度取組内容	従来実施している当該事業の一部を協働で行った。都跡公民館との協働で、公民館に隣接する旧田中家住宅(市指定文化財)を活用し、かまどでの炊飯等の昔の暮らし体験を含む講座を実施した。なお、赤膚山元窯保存会との協働で、平成29年度に修理が完了した大型登り窯(登録有形文化財)を活用し、登り窯の見学や解説、窯元の仕事体験を含む講座を3月に実施する計画を立てたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、開催を中止した。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 ← ← → → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少 どちらとも あまり できな 少 でき とも言え できな かつ した きた い かった た	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
評価点			41	42

総合点	83
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	市指定文化財の民家を活用し、昔の暮らしを学び、体験する機会を提供することができた。公民館は、講座内容のアイデアや工作のノウハウなどが豊富で、こちらの不得手な部分を補ってもらうことができた。当日は、公民館のサポーターや自主グループの協力を得られたことで、より安全に講座を進められた。	文化財についての基本的な考えや地域文化の継承や保護について、専門部署と協働したことで、市民の方々にその重要性や意義を理解し深めてもらうなど、実施目的を果たすことができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	開催の時期や内容などを試行錯誤しながら、今後も文化財講座を協働で実施していきたい。 また、市指定文化財が隣にあるという立地を生かして、公民館で行う講座や催し等にぜひ活用してもらいたい。	かまどや畳など古民家の持つ良さを活用し、貴重な体験をする機会の提供ができた。今後も市民の方々の方々の心に残る催しを企画するために、連絡や打合せを密にし、文化財保護への理解につなげていきたい。

No.	15	事業名	史料保存館展示関連見学会					
部名	教育部		課名	文化財課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向 ① 文化財の保護と啓発 市民が奈良の歴史文化を知る機会となる文化財活用普及事業の充実を図ります。			
	基本施策	2-04	文化遺産の保護と継承					
	施策	2-04-01	文化遺産の保存と活用					
相手方の名称	NPO法人なら・観光ボランティアガイドの会「朱雀」		協働事業の実施手法	共催				
実施の時期	年4回		事業開始年度	平成28年度				
令和元年度事業費	予算額	2,400		決算額	2,387 (単位：千円)			
事業の概要・目的	史料保存館の展示テーマに合わせた市内の現地見学と、史料保存館の展示見学を行い、奈良の歴史文化に対する知識を深め、文化財保護の推進を図る。							
目標指標	指標名	実施回数						
	単位	回	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	1	4	4	4	4
実績値	1	4	4	4				
令和元年度実施計画	ホームページやしみんだより、ツイッターに解説付きガイドツアー募集の記事を掲載し、NPO法人なら・観光ボランティアガイドの会「朱雀」の案内で、史料保存館の企画展示及び特別陳列「ならまち歳時記展にゆかりの地を歩く見学会」を行う。あわせて同館職員の解説により史料保存館の展示を見学してもらう。また、参加者アンケートを基に今後の事業内容を検討する。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
評価点			42	43

総合点	85
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	史料保存館での展示見学とあわせて、展示テーマにゆかりの場所をボランティアガイドによるわかりやすい解説で見学することによって、参加者が奈良の歴史に興味をもつきっかけとなり、知識を深める機会となりました。	前年度比8.3%増の274名のお客様に参加頂き、特に昨年度と同じテーマの2回に限れば47.8%増の176名になりました。史料保存館のテーマ設定が的確で興味深いものであったといえます。
協働することで見た課題や協働相手に対して求めることなど	参加者が良好な環境下で史料保存館展示室での見学が行えるように、今後も各班の出発・進行調整の協力を求めます。	予想を上回る多数の参加者があった回もあり、施設の収容人数に限界を感じたことから、募集人数については、対応可能な人数を上限として定員化を図り、各グループを少しずらして館内に入れて頂ければ解説も見学も余裕を持てます。又、踏み台を使つての解説は声も良く聞こえ好評でした。

No.	16	事業名	上深川歴史民俗資料館(指定管理)					
部名	教育部		課名	文化財課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向 ③ 文化財保存・展示施設の整備 <small>史料保存館など文化財保存公開施設の充実を図ります。</small>			
	基本施策	2-04	文化遺産の保護と継承					
	施策	2-04-01	文化遺産の保存と活用					
相手方の名称	奈良市上深川町自治会		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	昭和53年度				
令和元年度事業費	予算額	208		決算額	208 (単位：千円)			
事業の概要・目的	地域の文化財保存公開施設として適切に管理を行い、特に当該地域の特色ある文化財である重要無形民俗文化財「題目立」の保存公開に寄与する運営を行う。							
目標指標	指標名	重要無形民俗文化財「題目立」の保存公開、施設管理に要する日数						
	単位	日	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	29	28	28	28	28
実績値	49	50	50	55				
令和元年度実施計画	「題目立」の合同練習、現地公開のために開館する。また見学希望者への公開のために随時開館する。そのほか施設維持管理、収蔵資料の保存等のために毎月定期的に点検等を行う。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
評価点			43	43

総合点	86
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	事業の目的である、地域の特色ある文化財の保存伝承に資するうえで、施設の所在する地域と当該文化財そのものを熟知する団体が、施設を管理し運営したことで、当該地域の無形民俗文化財の保存、伝承に効果を発揮することができた。	地域に伝えられた大切な伝統行事を公開し、関連する資料や装束などを保管して、後世に引き継いでいくための活動の拠点施設を、市と協力して管理運営することができたことで、安定的に伝承活動をすることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	施設公開の機会の拡充、説明資料の充実など見学者への対応をさらに充実させる。	来館者に対する応対や見学資料の作成、その他施設の活用について、さらに市と相談しながら進めていきたい。

No.	17	事業名	ならまちわらべうたフェスタ					
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		③ 伝統文化の普及と継承 伝統文化の普及のために、市民が伝統文化に触れる機会を提供する等の支援を行います。			
	基本施策	2-05	文化振興					
	施策	2-05-01	文化の振興					
展開方向								
相手方の名称	文化団体・NPO・財団等		協働事業の実施手法	実行委員会・協議会				
実施の時期	10月		事業開始年度	平成5年度				
令和元年度事業費	予算額	1,732		決算額	1,732 (単位：千円)			
事業の概要・目的	わらべうたは子どもたちによって遊びの中で伝えられ、それぞれの時代の子どもの様子や人々の文化が表現されている。このわらべうたを貴重な無形文化遺産と位置づけ広く継承することと、「ならまち」の地域活性化と文化振興を目的にわらべうたをベースとしたおまつりを開催する。							
目標指標	指標名	ならまちわらべうたフェスタ協力団体数の増加						
	単位	団体	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	31	32	40	45	50
実績値	35	35	31	33				
令和元年度実施計画	例年同様のわらべうたフェスタを開催するとともに、開催地域の拡大(きたまちエリア)を目指し、さらに大きなイベントとする。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	3	3
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	3	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	3	3
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	3	3
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点			30	33

総合点	63
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	各団体の特性を活かし、地域の活性化に寄与した。	特になし
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	新たな取り組みへの意欲と自主性を求める。	特になし

No.	18	事業名	奈良市西部会館市民ホール(学園前ホール)の運営					
部名	市民部		課名	文化振興課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	①	文化の発信と交流	
	基本施策	2-05	文化振興			市民の文化活動・芸術活動の場の提供や、市民が文化に接する機会の拡充に努めるとともに、市民との交流・連携を図り、文化政策を推進します。		
	施策	2-05-01	文化の振興					
相手方の名称	日本環境マネジメント株式会社		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成20年度(指定管理者制度導入年度)				
令和元年度事業費	予算額	40,000	決算額	40,000	(単位：千円)			
事業の概要・目的	<p>西部会館市民ホール(学園前ホール)の設置により、市民の連帯感の育成と文化の向上を図るとともに、ふれあい豊かな地域社会づくりをめざす。</p> <p>指定期間：平成30年4月1日～平成35年3月31日 開館時間：午前9時から午後5時まで(ただし施設の利用は午後9時半まで) 休館日：月曜日、休日の翌日、12月28日から1月4日 西部会館市民ホールの業務内容：①施設の貸し出し、②文化振興を図るための自主事業(コンサート、講演、文化講座など)</p>							
目標指標	指標名	来館者数の増加						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	40,000	38,000	38,130	38,481	38,862
実績値	37,381	35,848	40,967	39,130				
令和元年度実施計画	指定管理を行う日本環境マネジメント株式会社と活発な情報交換、報告、助言に努め、施設使用者の満足度が高い(指定管理者実施のお客様アンケートより総合満足度上位2項目で96%)施設運営を行った。 また指定管理者による企画事業は19事業実施し、多くの市民が文化芸術を楽しむ機会を提供することができた。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
評価点			38	39

総合点	77
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	所管課では把握しきれない施設の現状および施設利用者や事業参加者の意見・ニーズを踏まえ、より効率的な施設管理や事業の企画運営をすることが出来た。	企画事業並びに自主事業に関し、市としてのアドバイスを頂くことで、提供するコンテンツに対し、方向性を見失くことなく推進できた。また他団体との連携事業についても、相互確認および意見交換の中で適切な方向性を目指すことができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	十分な協議を行い目的や問題意識の更なる共有を図るとともに、連携を深め施設や事業の積極的な広報を行っていくべきと考える。	課題として、広報の強化がある。しみんだよりや毎月の催事案内、催事ごとのフライヤー&ポスター等は、一定の効果があると思うが、LINEに代表されるSNS活用による告知展開、並びに多様化する市民ニーズの集約が今後必要ではないかと考える。

No.	19	事業名	北部会館市民文化ホール運営					
部名	市民部		課名	文化振興課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	①	文化の発信と交流	
	基本施策	2-05	文化振興			市民の文化活動・芸術活動の場の提供や、市民が文化に接する機会の拡充に努めるとともに、市民との交流・連携を図り、文化政策を推進します。		
	施策	2-05-01	文化の振興					
相手方の名称	一般財団法人奈良市総合財団		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成20年度(指定管理者制度導入年度)				
令和元年度事業費	予算額	32,200		決算額	32,200		(単位：千円)	
事業の概要・目的	北部会館市民文化ホールの設置により、市民の自主的な文化活動の促進、教養の向上及び健康の保持を図るとともに、市民の福祉の増進に資する。 指定期間：平成30年4月1日～平成35年3月31日 開館時間：午前9時から午後5時まで(ただし施設の利用は午後9時半まで) 休館日：月曜日、休日の翌日、12月28日から1月4日 北部会館市民文化ホールの業務内容：①施設の貸し出し、②文化振興を図るための自主事業(コンサート、講演など)							
目標指標	指標名	来館者数の増加						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	130,000	134,000	128,600	119,491	120,682
実績値	133,895	128,036	93,080	74,819				
令和元年度実施計画	指定管理を行う一般財団法人奈良市総合財団と活発な情報交換、報告、助言に努め、地域住民のニーズを汲んだ効果的な施設運営を行った。 また指定管理者による企画事業は13事業実施し、地域の文化発信の拠点としての役割も担った。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 ← ← → → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかつた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						4	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						5	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						4	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						4	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						4	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						3	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						5	4
評価点							38	39	

総合点	77
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	所管課では把握しきれない施設の現状および事業参加者の意見・ニーズを踏まえ、より効率的な施設管理や事業の企画運営をすることが出来た。	新型コロナウイルス感染拡大対策では、行政との協働事業であることから、的確な情報をいち早く入手することができた。また、迅速な対応を行う事が出来た。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	十分な協議を行い目的や問題意識の更なる共有を図るとともに、連携を深め施設や事業の積極的な広報を行っていくべきと考える。	地域住民へ良質な公共サービスを提供するために、他府県民が施設を利用する際の利用料金の差別化などに検討事項がある。

No.	20	事業名	入江泰吉旧居の運営					
部名	市民部		課名	文化振興課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	①	文化の発信と交流	
	基本施策	2-05	文化振興			市民の文化活動・芸術活動の場の提供や、市民が文化に接する機会の拡充に努めるとともに、市民との交流・連携を図り、文化政策を推進します。		
	施策	2-05-01	文化の振興					
相手方の名称	一般財団法人奈良市総合財団		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成26年度(開館年度)				
令和元年度事業費	予算額	10,566		決算額	10,566		(単位：千円)	
事業の概要・目的	<p>入江泰吉旧居の設置により、奈良を愛した写真家入江泰吉の旧居を保存活用し、その業績の顕彰を図り、もって奈良を愛する心を育むとともに、文化の向上に資する。</p> <p>指定期間：平成31年4月1日～令和6年3月31日 開館時間：午前9時半から午後5時まで(ただし入館は午後4時半まで) 休館日：月曜日、休日の翌日 入江泰吉旧居の業務内容：①旧居の一般公開、②入江泰吉及び写真に関する事業の開催</p>							
目標指標	指標名	来館者数の増加						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値			6,100	6,868	6,930
実績値	7,033	5,923	7,387	6,409				
令和元年度実施計画	指定管理を行う一般財団法人奈良市総合財団と活発な情報交換、報告、助言に努め、効果的な施設運営を行った。また指定管理者による企画事業は17事業実施し、歴史や文化、芸術等への関心を高めることに努めた。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価	
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							4
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた 少 し で き た ど ち ら と も 言 え な い あ ま り で き な か つ た で き な か つ た	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						5	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						5	4
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						4	4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						4	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						3	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						5	4
	評価点						38	35	

総合点	73
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	所管課では把握しきれない施設の現状および施設利用者や事業参加者の意見・ニーズを踏まえ、より効率的な施設管理や事業の企画運営をすることが出来た。	公立施設であるという事で、入館者に安心感や信頼感を持たれることは強みである。企画事業については入江泰吉記念奈良市写真美術館のノウハウを土台とし、NPO法人文化創造アルカの奈良の情報をもとに、写真愛好家、奈良を好きな人たちと幅広く事業展開できていると思われる。訪れた方たちのアンケートでは高評価を得ている。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	十分な協議を行い目的や問題意識の更なる共有を図るとともに、連携を深め施設や事業の積極的な広報を行っていくべきと考える。	協働の強みを活かし講座等事業展開しているが、どうしても講座によって人数の増減があること。そして全体をとおしてのことだが、入江泰吉旧居としての認知度、周知がまだまだ不十分な点である。今後、広報戦略として、どう展開するか、互いに知恵を出してやっていく必要がある。

No.	21	事業名	奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」					
部名	市民活動部		課名	文化振興課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		④ 「東アジア文化都市」事業主旨に基づく施策の実践 文化庁との共催事業である「東アジア文化都市」事業をはじめ、文化でまちを豊かにする施策を推進します。			
	基本施策	2-05	文化振興					
	施策	2-05-01	文化の振興					
相手方の名称	奈良市アートプロジェクト実行委員会		協働事業の実施手法	実行委員会・協議会				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成29年度				
令和元年度事業費	予算額	11,731		決算額	11,582 (単位：千円)			
事業の概要・目的	「東アジア文化都市2016奈良市」の成果を引き継ぐため、平成28年12月に「奈良市アートプロジェクト実行委員会」を立ち上げ、社会課題をアートによって掘り下げ、新たな価値につなげていくための取り組みを進めることになりました。							
目標指標	指標名	事業満足度(大変良いと良いの合計)						
	単位	%	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値		80	80	80	80
実績値		88	87	93				
令和元年度実施計画	奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」事業を進めるにあたって、実行委員会と協議しながら4プログラムを実施した。また、実行委員会のみならず、各プログラムにおいては、プログラムディレクターが事業の監修を行った。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	3	3
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	3
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点			34	35

総合点	69
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	本事業の実行委員会は事務局を市におくもの、実行委員会やプログラムディレクターの意見をもとに運営している。そのため、現在のアートシーンを反映した企画が実施されており、著名な作家・芸術家の参加なども実現している。	市と共催で実施することで、教育委員会等から協力が得やすい。また、広報面においても市施設などを通じて周知を行うことができ、一定の効果を得られている。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	企画によっては専門性が高く市民に伝わりにくい内容となることがある。企画意図を平易に伝えるよう、実行委員会において工夫が必要である。	事業における将来的なビジョンが明確でなく、単年度の事業実施を繰り返しているように感じる。今後、中長期的見通しを持った事業展開が必要である。

No.	22	事業名	奈良市都祁交流センターの運営					
部名	市民部		課名	都祁行政センター地域振興課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	①	文化の発信と交流	
	基本施策	2-05	文化振興			市民の文化活動・芸術活動の場の提供や、市民が文化に接する機会の拡充に努めるとともに、市民との交流・連携を図り、文化政策を推進します。		
	施策	2-05-01	文化の振興					
相手方の名称	一般財団法人 奈良市総合財団		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成18年度(指定管理者制度導入年度)				
令和元年度事業費	予算額	30,100		決算額	30,100		(単位：千円)	
事業の概要・目的	市民の文化振興と福祉の増進を図るとともに、地域間・世代間交流を促進するための文化活動の拠点となる施設の管理を行う。							
目標指標	指標名	利用者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	16,000	18,000	18,100	18,200	18,300
実績値	20,456	19,484	19,521	16,437				
令和元年度取組内容	市民への良質なサービス提供の支援を行うため、指定管理者と情報共有や十分な協議を行いながら、自主事業の充実を図った。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	3	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	—	—
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	2
評価点			33	32

総合点	65
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	都祁地域の豊かな自然、歴史、文化という魅力を活かした事業展開と、ファミリー向けイベントなど、世代間交流ができ気軽に来館できる環境づくりを行った。	施設管理運営上の課題等を随時報告することによって、双方が常に共通認識でそのプロセスについて共有することができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	多様化する住民ニーズや満足度に対応するとともに、今後も地域性を活かした安心安全な施設運営と、持続可能な自主事業の強化に努めていただきたい。	新型コロナウイルス感染症への今後の対応策と予防策の支援。 市民へのサービス向上を図るべき施設運営と事業展開への支援。

No.	23	事業名	奈良市都祁生涯スポーツセンターコート4施設の運営					
部名	市民部		課名	都祁行政センター地域振興課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向			
	基本施策	2-06	スポーツ振興					
	施策	2-06-01	スポーツの振興					
相手方の名称	一般財団法人 奈良市総合財団		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成22年度(8月供用開始)				
令和元年度事業費	予算額	9,936		決算額	9,936 (単位：千円)			
事業の概要・目的	健康で生きがいを持って暮らせるよう、生涯スポーツ宣言地域としてスポーツ・レクリエーションを通じて健康を維持・推進できるよう安全・安心なスポーツ施設の管理運営を行う。							
目標指標	指標名	利用者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	19,500	20,000	20,500	21,000	21,500
実績値	15,711	17,731	17,268	14,830				
令和元年度取組内容	市民への良質なサービス提供の支援を行うため、指定管理者と情報共有や十分な協議を行いながら、自主事業の充実を図った。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	3	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	—	—
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	2
評価点			33	32

総合点	65
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	都祁地域内の企業やスポーツクラブ等との連携による利用促進や、地域性を活かした施設管理運営を行うことができた。	施設管理運営上の課題等を随時報告することによって、双方が常に共通認識でそのプロセスについて共有することができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	地域のスポーツ拠点の一つとして、地域性を活かした安心安全な施設運営と、自主事業の強化に努めていただきたい。	新型コロナウイルス感染症への今後の対応策と予防策の支援。 市民へのサービス向上を図るべき施設運営と事業展開への支援。

No.	24	事業名	奈良市都祁体育館の運営					
部名	市民部		課名	都祁行政センター地域振興課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	②	生涯スポーツの推進	
	基本施策	2-06	スポーツ振興					
	施策	2-06-01	スポーツの振興					
相手方の名称	一般財団法人 奈良市総合財団		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成18年度(指定管理者制度導入年)				
令和元年度事業費	予算額	6,300		決算額	6,300		(単位：千円)	
事業の概要・目的	健康で生きがいを持って暮らせるよう、生涯スポーツ宣言地域としてスポーツ・レクリエーションを通じて健康を維持・推進できるよう安全・安心なスポーツ施設の管理運営を行う。							
目標指標	指標名	利用者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	6,300	6,400	6,500	6,600	6,700
実績値	9,072	10,059	8,542	8,771				
令和元年度取組内容	市民への良質なサービス提供の支援を行うため、指定管理者と情報共有や十分な協議を行いながら、自主事業の充実を図った。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	3	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	—	—
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	2
評価点			33	32

総合点	65
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	都祁地域内の企業やスポーツクラブ等との連携による利用促進や、地域性を活かした施設管理運営を行うことができた。	施設管理運営上の課題等を随時報告することによって、双方が常に共通認識でそのプロセスについて共有することができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	地域のスポーツ拠点の一つとして、地域性を活かした安心安全な施設運営と、自主事業の強化に努めていただきたい。	新型コロナウイルス感染症への今後の対応策と予防策の支援。 市民へのサービス向上を図るべき施設運営と事業展開への支援。

No.	25	事業名	地域福祉活動の支援事業					
部名	福祉部		課名	福祉政策課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向 ② 地域福祉活動の推進 <small>地域ごとに作成する地域福祉活動計画の策定を奈良市社会福祉協議会と協働して推進します。</small>			
	基本施策	3-01	地域福祉					
	施策	3-01-01	地域福祉の推進					
相手方の名称	地区社会福祉協議会		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成16年度				
令和元年度事業費	予算額	0		決算額	0 (単位：千円)			
事業の概要・目的	地域住民の立場から地域特性にあった「地域福祉活動計画」を作成し、住民の福祉活動への理解や参加を促し、住みよい生活環境づくりを実現する。現在46の地区社会福祉協議会があり、住民自治に根ざした地域住民と行政の対等なパートナーシップのもと、連携・協働による福祉のまちづくりをめざす。							
目標指標	指標名	地域福祉活動計画の策定地区数						
	単位	地区	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	20	26	32	38	46
実績値	20	25	31	34				
令和元年度実施計画	地区社協等の地域福祉に関する活動を行う方々が、共通の目標を持ち計画的に福祉のまちづくりに取り組んでいくことができるよう、地域福祉活動計画を策定する。未策定地区については、策定実施に向け積極的に働きかけをする。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点			40	40

総合点	80
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	市社協を通じて、市社協の地区担当者と地区社協等活動者が地域における福祉課題の解決に向け議論・協議を行い、一部の地域で地域福祉活動計画を作成することができた。	地域福祉活動計画を推進する上で、行政・市社協・地域住民（地区社協）が協働するために、市社協と当該課との協議や、地区社協会長会を通じた行政との協議の場で地域課題や行政施策等の情報共有・協議を図ることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	市社協を通じて未策定の地域については、今後も地域の福祉課題解決に向けた議論・協議が必要と考える。	複雑・多様な今日的な地域課題を解決していくためには行政内の縦割りをなくし、組織横断的な協議の場の設定や制度の狭間の福祉課題に対応するためにも課題解決に向けた組織横断的な庁内の連携体制が必要である。

No.	26	事業名	奈良市月ヶ瀬福祉センターの運営					
部名	福祉部		課名	長寿福祉課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向	③	地域福祉推進体制の充実	
	基本施策	3-01	地域福祉			地域福祉推進に係る各種団体との連携を充実します。		
	施策	3-01-01	地域福祉の推進					
相手方の名称	(福)奈良市社会福祉協議会		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成22年度(指定管理者制度導入年度)				
令和元年度事業費	予算額	29,300		決算額	29,300		(単位：千円)	
事業の概要・目的	市民の福祉活動の振興及び健康の増進を図り、市民の福祉の向上に資する。							
目標指標	指標名	利用者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	25,500	25,600	25,700	25,800	25,900
実績値	25,248	24,254	22,206	22,194				
令和元年度実施計画	市民の福祉活動の振興及び健康の増進を図り、もって市民の福祉の向上に資するため、指定管理で、奈良市社会福祉協議会において福祉センターの施設運営を行う。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価	
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			5
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかつた どちらとも書えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4	
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5		
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	4	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4	
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	3	
	評価点			36	36

総合点	72
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	行政と奈良市社会福祉協議会および地域組織とが協働することで、良好な地域環境を維持することが出来るようになった。地域社会との結びつきも緊密となることでより多くの地域の課題を発見でき、解決に繋げていけることが出来ると感じた。	行政と協働することで、単独では出来ないことへの課題解決ができ、良好な地域環境を維持することが出来るようになった。
協働することで見た課題や協働相手に対して求めることなど	行政と奈良市社会福祉協議会および地域組織と情報の共有を行い、互いの組織で出来ることを確認し補う等の役割分担を行い、今後も地域の福祉課題を解決できるよう取り組んでいく必要がある。	地域福祉をより推進するために、各関係機関と地域組織のネットワーク作りを行っていく必要がある。行政には各関係機関と協働するための協議の場作りに対する支援等を行ってもらい、より関係が密になるよう取り計らってほしい。

No.	27	事業名	奈良市都祁福祉センターの運営					
部名	福祉部		課名	長寿福祉課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向	③	地域福祉推進体制の充実	
	基本施策	3-01	地域福祉			地域福祉推進に係る各種団体との連携を充実します。		
	施策	3-01-01	地域福祉の推進					
相手方の名称	(福)奈良市社会福祉協議会		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成22年度(指定管理者制度導入年度)				
令和元年度事業費	予算額	33,100		決算額	33,100		(単位：千円)	
事業の概要・目的	市民の福祉活動の振興及び健康の増進を図り、市民の福祉の向上に資する。							
目標指標	指標名	利用者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	30,100	30,200	30,300	30,400	30,500
実績値	23,412	25,950	25,844	24,270				
令和元年度実施計画	市民の福祉活動の振興及び健康の増進を図り、もって市民の福祉の向上に資するため、指定管理で、奈良市社会福祉協議会において福祉センターの施設運営を行う。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価	
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。								5
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							4	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							3	3
	評価点								36	36

総合点	72
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	行政と奈良市社会福祉協議会および地域組織とが協働することで、良好な地域環境を維持することが出来るようになった。地域社会との結びつきも緊密となることでより多くの地域の課題を発見でき、解決に繋げていけることが出来ると感じた。	市民の福祉活動の振興及び健康の増進を図り、もって市民の福祉の向上に資するため、指定管理で、奈良市社会福祉協議会において福祉センターの施設運営を行った。
協働することで見た課題や協働相手に対して求めることなど	行政と奈良市社会福祉協議会および地域組織と情報の共有を行い、互いの組織で出来ることを確認し補う等の役割分担を行い、今後も地域の福祉課題を解決できるよう取り組んでいく必要がある。	地域福祉をより推進するために、各関係機関と地域組織のネットワーク作りを行っていく必要がある。行政には各関係機関と協働するための協議の場作りに対する支援等を行ってもらい、より関係が密になるよう取り計らってもらいたい。

No.	28	事業名	奈良市子ども会議開催事業					
部名	子ども未来部		課名	子ども政策課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向			
	基本施策	3-02	子育て					
	施策	3-02-01	子育て支援の推進					
			②	子育て中の親子の居場所づくり				
			子育てに関する情報について広く周知し、子育て世代が奈良市に住みたい、住み続けたいと感じるまちづくりを目指します。					
相手方の名称	市民(原則10～17歳の子ども)		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成27年度				
令和元年度事業費	予算額	774	決算額	689	(単位：千円)			
事業の概要・目的	「奈良市子どもにやさしいまちづくり条例」は、子どもたちが今を幸せに生きることができ、将来に夢と希望をもって成長していけるように、子ども参加によって大人とともにまちづくりを進めることを目的とする。そのためこの条例で規定している子どもが意見表明をし、参加する場として「奈良市子ども会議」を開催する。							
目標指標	指標名	奈良市子ども会議参加者の意見表明に対する満足度						
	単位	%	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	80	85	90	90	95
実績値	79.6	80.1	79.7	81.3				
令和元年度取組内容	5回目となる「奈良市子ども会議」では話し合うテーマを「2020年オリンピックに向けて奈良市を訪れる人にもやさしいまちとは？」とし、オリンピックに合わせて奈良を訪れる観光客に向けておもてなしをする内容がまとめられ、市長に提出した。また、子どもたちの提案を翌年度実施するため、子どもたちに向けた説明会を実施した。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも書かない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	3	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	
評価点			38	0

総合点	76
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	子ども参加者から「2020年オリンピックに向けて奈良市を訪れる人にもやさしいまちとは？」をテーマに、多くの意見をいただき、子どもたちが主体となって、2020年7月開催のオリンピックに合わせて訪れる観光客に向けた奈良市としてのおもてなし企画を検討することができた。	
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	意見報告を行う上で、子どもたちの多数の意見の中から提案内容を絞っていかねばならないため、どういったかたちで取りまとめていくべきかが課題となる。	

No.	29	事業名	子育て親子の集える場の提供					
部名	子ども未来部		課名	子ども育成課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向 ② 子育て中の親子の居場所づくり 子育て親子の交流の促進や育児相談等ができる地域子育て支援拠点で、地域支援活動の取組を積極的にを行い、事業の充実を図ります。			
	基本施策	3-02	子育て					
	施策	3-02-01	子育て支援の推進					
相手方の名称	子育て支援団体(社会福祉法人、NPO法人等) 地区民生児童委員協議会・地区社会福祉協議会等		協働事業の実施手法	委託				
実施の時期	通年または月1・2回		事業開始年度	平成5年度				
令和元年度事業費	予算額	129,294		決算額	122,250 (単位：千円)			
事業の概要・目的	子育て親子(おおむね0～3歳児とその親)を対象に、交流の場の提供と交流の促進、子育て等に関する相談及び援助の実施、地域の子育て関連情報の提供、子育て及び子育て支援に関する講習等の多様な子育て支援活動を実施する。							
目標指標	指標名	子育て中の親子の集える場の利用者数の増加						
	単位	人(年間延べ人数)	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	151,000	164,000	177,000	190,000	190,000
実績値	159,359	160,874	156,996	139,107				
令和元年度取組内容	子育て親子の集える場において、子育てに関する講座やイベント、情報提供など多様な子育て支援活動を実施し、地域全体で子どもの育ち・親の育ちを支援した。一部の地域子育て支援拠点においては、子育てコーディネーターによる相談など、より利用者寄り添った支援を実施した。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも書えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点			40	40

総合点	80
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	子育て支援団体、地区社会福祉協議会については、様々な資源やノウハウを持つ各団体の特色を活かし、利用者のニーズに応じた子育て支援を行うことができた。また、地区民生児童委員協議会については、地域において、住民と関わりながら積極的に子育て支援ができた。	・一時預かりに関する記録やブログの開設など、行政の後押しで実現することができた。 ・地域子育て支援拠点同士のつながりや、他機関との連携が広がり、運営に活かされた。
協働することで見た課題や協働相手に対して求めることなど	各団体の持つ特色やノウハウを活かし、引き続き利用者寄り添った子育て支援及び地域貢献を求める。	・数値による達成目標だけでなく、親子の思いをくみ取ることができる目標設定も検討してほしい。 ・今後も、事業に関する提案や相談、調整を行ってほしい。

No.	30	事業名	子育て支援アドバイザー					
部名	子ども未来部		課名	子ども育成課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉	展開方向 ⑤ 子育ての相談窓口 子育て親子にとって身近な場所で、子育てに関する相談や情報提供を行うとともに、関係機関と連携し、子育て支援の機能強化を図ります。				
	基本施策	3-02	子育て					
	施策	3-02-01	子育て支援の推進					
相手方の名称	個人ボランティア及び子育て支援団体		協働事業の実施手法	委託				
実施の時期	随時		事業開始年度	平成18年度				
令和元年度事業費	予算額	1,224		決算額	1,224 (単位：千円)			
事業の概要・目的	<p>地域の子育て経験豊かな市民を「子育て支援アドバイザー」として登録し、子育て親子が集まる場所に派遣し、子育てに関する相談、助言、情報提供を行い、親の育児の負担感や不安感を軽減する。また、絵本の読み聞かせ、手遊び、親子体操等、子育て支援アドバイザーができる範囲で支援を行う。</p> <p>なお、事務の効率化及び事業内容の充実を図るため、子育て支援の経験豊富なスタッフが在籍する地域子育て支援拠点事業の実施団体に、事業を委託している。</p>							
目標指標	指標名	子育て支援アドバイザーの派遣回数						
	単位	回数	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	500	500	500	500	500
実績値	552	537	500	487				
令和元年度取組内容	<p>アドバイザーの活動内容を3区分に分類し、依頼元のニーズに沿った派遣を行うとともに、地域子育て支援拠点交流会等を実施し、アドバイザーと地域との交流・連携を深めた。また、アドバイザー事業を地域子育て支援拠点事業の実施団体に委託し、事務の効率化と事業内容の充実を図った。</p>							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 ← ← → → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	5
評価点			42	44

総合点	86
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価	A				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	子育て支援アドバイザーが、地域子育て支援拠点等において、子育て支援に関わることにより、子育て親子の孤立感の解消や、育児不安・負担軽減の一助となった。	フォローアップ講座の実施にあたり、講師として子育てナビゲーターが参加したことで、連携ができた。
協働することで見た課題や協働相手に対して求めることなど	個人ボランティアについて、子育て支援アドバイザーとしての活動を契機に、他の事業への協力を求める。 子育て支援団体について、派遣するアドバイザーに偏りが無いよう求める。	特になし

No.	31	事業名	ファミリー・サポート・センター事業					
部名	子ども未来部		課名	子ども育成課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向			
	基本施策	3-02	子育て					
	施策	3-02-01	子育て支援の推進					
			③	子どもの預り				
			多様化する家庭環境に対応するため、保護者が一時的に子どもの養育が困難になった場合、安心して子どもを預けることができる子育て支援サービスの充実を図ります。					
相手方の名称	個人ボランティア及び市内で活動する法人		協働事業の実施手法	委託				
実施の時期	随時		事業開始年度	平成16年度				
令和元年度事業費	予算額	14,158	決算額	11,283	(単位：千円)			
事業の概要・目的	<p>「育児の援助を受けたい人」と「育児の援助を行いたい人」が依頼・援助・両方のいずれかの会員として登録し、児童の放課後の預かりや保育所等の送迎等で育児の援助が必要となったときに、会員相互の援助活動を行っている。</p> <p>なお、事業の運営については、事務の効率化及び事業内容の充実を図るため、市内で活動する法人に委託している。</p>							
目標指標	指標名	ファミリー・サポート・センターの相互援助活動件数						
	単位	件	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
実績値	6,695	6,682	7,288	5,762				
令和元年度取組内容	<p>会員間での相互援助活動に加え、妊娠中や出産後の家庭にホームヘルパーを派遣し、家事や育児の援助を行った。また、多子世帯及びひとり親家庭等が事業を利用した場合に利用料の一部を助成した。加えて、令和2年度以降の実施団体を決定するための審査委員会を実施した。</p>							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 ← ← → → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかつた どちらとも書えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	4
評価点			42	42

総合点	84
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	<p>援助会員が依頼会員に対し援助を行うことで、育児負担の軽減につながった。</p> <p>市内で活動する法人については、法人の持つ資源を事業に活用することができた。</p>	<p>エンゼルサポート事業では、弊社所属のヘルパーを迅速に手配することにより、子育て世代の新しい家事支援ができていると思われる。</p>
協働することで見た課題や協働相手に対して求めることなど	<p>依頼会員数は増加傾向にあるものの、対応する援助会員数の不足が課題となっているため、今後も積極的に周知を行い、援助会員の増加を図ることを求める。</p>	<p>新型コロナウイルスの感染拡大防止策や、厚生労働省からの指針など、一層の情報交換、共有が必要であると感じている。</p>

No.	32	事業名	視覚障害者向け広報等発行事業					
部名	福祉部		課名	障がい福祉課				
総合計画上の位置付け	章	第3章 保健福祉		展開方向	② 障がい者の社会参加と自立支援			
	基本施策	3-03 障がい者・児福祉			障がい者があらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的とした啓発、広報等の充実を図るとともに、スポーツ・文化活動の振興を図ります。			
	施策	3-03-01 障がい者・児福祉の充実						
相手方の名称	ボランティア団体		協働事業の実施手法	補助・助成				
実施の時期	通年		事業開始年度	昭和57年度				
令和元年度事業費	予算額	4,066		決算額	639 (単位：千円)			
事業の概要・目的	視覚障害者の内、希望者にしみんだよりなどの広報の点字版や音声版を製作し配布する。							
目標指標	指標名	活動の育成						
	単位	ボランティアの人数	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	60	60	60	60	60
実績値	60	60	60	60				
令和元年度実施計画	市は点訳ボランティア及び音訳ボランティアに総合福祉センターの一室と点字用紙や録音用CD、製作用機材を提供し、ボランティアは市の広報誌等の点字版、音声版を作成、希望する視覚障害者に配布する。また、障害者の地域生活を支援するボランティアを育成する。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 4 3 2 1 ← ← → → でき 少 ど あ でき きた し ち り かな だ でき ち り かな け ない づ け ない ない ない ない	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					5	
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					5	/
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。					4	/
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					4	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					5	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					4	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					4	
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					5	
評価点						41	0	

総合点	82
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	市の広報誌等の点字版・音声版を製作し、希望する視覚障害者に配布することによって行政からの情報を伝えることができた。	市の広報誌等の点字版・音声版を製作し、希望する視覚障害者に配布することによって行政からの情報を伝えることができた。
協働することで見た課題や協働相手に対して求めることなど	ボランティア団体、行政とそれぞれの特性や役割をいかし、協働して事業を実施しているが、年々の状況の変化で生じた新たな課題等の共有・解消をより進めていく必要がある。	行政と適宜協議の場を持ち、より連携していきたい。広報誌の点訳内容等について、行政からの意見がほしい。

No.	33	事業名	奈良市総合福祉センターの運営					
部名	福祉部		課名	障がい福祉課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向 ② 障がい者の社会参加と自立支援 障がい者があらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的とした啓発、広報等の充実を図るとともに、スポーツ・文化活動の振興を図ります。			
	基本施策	3-03	障がい者・児福祉					
	施策	3-03-01	障がい者・児福祉の充実					
相手方の名称	(社福)奈良市社会福祉協議会		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成22年度(指定管理者制度導入年度)				
令和元年度事業費	予算額	187,639		決算額	187,643 (単位:千円)			
事業の概要・目的	障害者のための施策その他社会福祉施策の総合的な推進及び社会福祉活動の育成を図り、もって市民の福祉の増進に資するために設置された総合福祉センターを運営する。							
目標指標	指標名	施設の利用者数						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	90,000	90,000	90,000	90,000	90,000
実績値	84,859	90,945	89,456	75,880				
令和元年度実施計画	障害者福祉及び市民の福祉活動の振興を図り、もって市民の福祉の向上に資するため、奈良市社会福祉協議会を指定管理者として総合福祉センターの施設運営を行う。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも書かない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点			41	42

総合点	83
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	指定管理者のノウハウをいかすとともに適宜情報共有し、協働して施設運営することで市民等の福祉活動の振興及び福祉の向上に資することができた。	行政との協働事業を推進していく中で、利用者、地域住人と相応の評価を得ることができた。
協働することで見た課題や協働相手に対して求めることなど	社会情勢が変化の中で、多様化するニーズに応えるべく、より効果的・効率的な施設運営を行うためにも協働相手と目的や問題意識等を共有し、お互いの特性をいかしてさらなる連携を図っていく必要がある。	不測の事態(コロナ禍)により利用者地域住人の要望やニーズに年度の終盤において対応が十分ではなかった。各事業の再開に向けて準備と調整を行う。

No.	34	事業名	奈良市子ども発達センター					
部名	子ども未来部		課名	子育て相談課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		① 障がい者福祉サービスの充実 発達の遅れや障がいのある子どもと保護者に対し、相談や療育を行うため、子ども発達センターの事業の充実を図るとともに、医療機関や教育機関などと協力して支援の充実に努めます。			
	基本施策	3-03	障がい者・児福祉					
	施策	3-03-01	障がい者・児福祉の充実					
相手方の名称	(社会福祉法人) 宝山寺福祉事業団		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成23年度(指定管理制度導入年度)				
令和元年度事業費	予算額	26,520		決算額	23,914 (単位：千円)			
事業の概要・目的	奈良市子ども発達センターで児童発達支援を行う。							
目標指標	指標名	当該年度に児童発達支援を利用した幼児の実数						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	60	60	60	60	60
実績値	48	55	48	49				
令和元年度実施計画	<発達支援> 児童発達支援 <地域支援> ①幼稚園等への訪問による指導 ②事業所支援 ③自主事業(親子教室)(公開療育)							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも書かない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
評価点			45	45

総合点	90
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	「相談支援」と「発達支援」を一連の流れとして切れ目なく行えたことにより、市民(保護者)の不安の軽減を図った。	適切な連携を図ることにより、児童・保護者のニーズに対応するとともに保護者に適宜必要な助言等を行うことができた。
協働することで見た課題や協働相手に対して求めることなど	強みや得意意を含め互いの専門性に対する理解を深めあうことで新たな協働体制の在り方を考えることができた。	お互いの専門性を理解することにより、協働体制の推進を図ることができた。

No.	35	事業名	認知症サポーター養成講座					
部名	福祉部		課名	福祉政策課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向 ② 高齢者福祉サービスの充実 <small>認知症の人も介護者も住み慣れた地域で安心して生活できるよう、認知症地域支援推進員や地域包括支援センターと連携を図り、地域全体で認知症の人とその家族を支えるネットワークを構築し、総合的かつ継続的な支援を推進します。</small>			
	基本施策	3-04	高齢者福祉					
	施策	3-04-01	高齢者福祉の充実					
相手方の名称	地域包括支援センター職員を含むキャラバンメイト		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成20年度				
令和元年度事業費	予算額	998		決算額	543 (単位：千円)			
事業の概要・目的	国の認知症サポーター100万人キャラバン事業に基づき、認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守り、支援する認知症サポーターの養成や、その養成のための講師となるキャラバン・メイトの活動を支援する。							
目標指標	指標名	認知症サポーターを5ヶ年で約12,000名を養成予定、その後継続して実施						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	14,200	16,500	18,900	23,100	17,000
実績値	14,037	17,908	20,807	25,425				
令和元年度実施計画	認知症サポーターの更なる養成を行うため、未活動となっているキャラバンメイトが認知症サポーター養成講座の講師役として広く活動できるよう、認知症地域支援推進員や地域包括支援センターと協働し取り組む。また、認知症の人やその家族などが集う場であるオレンジカフェ(認知症カフェ)運営者との協働も含め、養成講座受講後もボランティアとして活躍できる場を提供できるよう支援する。							
今後の方針	拡大	拡大、縮小、廃止の理由	さらなる認知症サポーターを養成するため					



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点			40	41

総合点	81
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	認知症サポーター養成講座開催を通じて、開催先となる各種団体や受講者に認知症の人に優しいまちづくりのための認知症への理解を深める普及・啓発の推進ができた。	行政との協働により、より多層な市民・団体・学校などへの普及啓発が推進できた。認知症の理解を深めることだけが目的ではなく、「認知症の人を含むすべての人に優しいまち」をめざして、「まちづくり」をみんなで一緒に考えることができる講座ができた。
協働することで見た課題や協働相手に対して求めることなど	認知症サポーター養成講座開催の要望が多い地域では、講師役となる地域包括支援センターのキャラバンメイトの負担が大きくなってきている。メイトにはなっているが、活動に至っていない人の中で、意欲のあるメイトを発掘し、活動へと結びつける支援が必要。	多層な市民への啓発ができたことで、益々、多様な開催場所・日時・対象の講座開催が求められている。キャラバンメイトへの継続的フォローアップが必要である。認知症のことを自分ごととしてとらえ各地域にあわせたまちづくりがすすむように、地域住民や行政職員のキャラバンメイトも増えることが望ましい。

No.	36	事業名	老人福祉センターの運営					
部名	福祉部		課名	長寿福祉課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉	展開方向 ③ 高齢者福祉施設の整備 老人福祉センターにおける高齢者の各種相談、健康の増進・介護予防の推進、生きがいづくりと社会参加を推進します。				
	基本施策	3-04	高齢者福祉					
	施策	3-04-01	高齢者福祉の充実					
相手方の名称	(福)奈良市社会福祉協議会		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成20年度				
令和元年度事業費	予算額	129,300	決算額	128,870 (単位：千円)				
事業の概要・目的	高齢者の心身の健康保持及び増進を図るとともに、地域における交流の場として便宜を供与することによって生きがいづくりに寄与し、もって高齢者の福祉に資するため、東・西・南・北4箇所の老人福祉センターを運営する。							
目標指標	指標名	利用者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	192,000	194,000	196,000	198,000	200,000
実績値			190,319	182,883	185,302	147,583		
令和元年度実施計画	施設の老朽化に伴う故障等により施設の一部が使用不可能となる事態が多発することが予想されるため、迅速な情報共有を行うことで利用者への影響を最小限にとどめ、利用者のニーズを逃さないようにする。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも書えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	5
評価点			44	44

総合点	88
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	緊密に連携をとることで、的確な故障・事故等の情報共有、目的意識の共有、双方の役割の明確化による効率的な施設運営の実施が実現した。	高齢者の心身の健康の保持及び増進、生きがいにつながる事業や長寿健康ポイント対象事業指定や各関係機関、地域住民との連携を図りながら介護予防の視点での利用者のニーズに沿った事業展開を図るなど、協働により情報共有や協力が図られた。また広く世代間交流等の場として理解を得て事業を推進することが出来た。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	利用者のニーズを逃さない利用しやすい施設とするため、予算を確保し施設整備を進めていく必要がある。	高齢者をはじめ地域の多様化するニーズの対応や事業推進はもとより地域福祉の推進を図るには、さらなる情報の共有や指導、協議を広く行っていく必要がある。また施設の老朽化に伴う故障により利用者の便宜を削がない早期対応と情報提供と共有、改修・整備予算の獲得が必要である。

No.	37	事業名	奈良市立都祁診療所・月ヶ瀬診療所の運営					
部名	健康医療部		課名	医療政策課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向	①	地域医療体制の充実	
	基本施策	3-05	医療			東部・月ヶ瀬・都祁ゾーンの医療ニーズを把握するとともに、地域医療の確保のために各診療所の充実や在宅医療の充実に努める。		
	施策	3-05-01	医療の充実					
相手方の名称	公益社団法人 地域医療振興協会		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成22年度(指定管理者制度導入年度)				
令和元年度事業費	予算額	39,800		決算額	39,800		(単位：千円)	
事業の概要・目的	医療機関の少ない東部地域において、安定した保健医療サービス(診療、健康診断、健康相談、予防接種等)を行うことにより、地域の住民の方々に安心して健やかな生活を営んでいただくよりどころとする。 (※東部地域医療の特性上、目標値の設定はせず実施値のみ記載する。)							
目標指標	指標名	診療所利用者数						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値					
実績値	18,188	17,467	16,871	16,630				
令和元年度取組内容	指定管理者との管理運営協議会を設置し、情報共有を行うことでより良い診療所運営を行った。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 ← ← → → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかつた どちらとも書えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						5	4
評価点							43	42	

総合点	85
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	協働の相手方である協会(地域医療振興協会)の管理運営のノウハウを活かし、協会が行う他の事業の実績を反映させることができた。また、協会は市立奈良病院の指定管理者でもあるため、市立奈良病院との連携を図ることができた。	奈良市への事業計画及び決算書の提出、毎月の患者数報告により診療所の現状と問題点を共有する事ができた。また、運営に関しては、協会が市立奈良病院の指定管理者であることなども活かして医師の手配などを円滑に行い、診療所の安定した運営をすることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後も互いの協力関係を継続しながらも協会の特性を活かし、自主性・独自性を発揮することにより、地域医療への貢献につなげていく。	施設の経年劣化が著しく、奈良市と協議しながら、適切な補修等を行い患者の利便性と満足度向上に努めたい。

No.	38	事業名	奈良市立柳生診療所・田原診療所の運営					
部名	健康医療部		課名	医療政策課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向	①	地域医療体制の充実	
	基本施策	3-05	医療			東部・月ヶ瀬・都祁ゾーンの医療ニーズを把握するとともに、地域医療の確保のために各診療所の充実や在宅医療の充実に努める。		
	施策	3-05-01	医療の充実					
相手方の名称	公益社団法人 地域医療振興協会		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成18年度(指定管理者制度導入年度)				
令和元年度事業費	予算額	26,245		決算額	26,245		(単位：千円)	
事業の概要・目的	医療機関の少ない東部地域において、安定した保健医療サービス(診療、健康診断、健康相談、予防接種等)を行うことにより、地域の住民の方々に安心して健やかな生活を営んでいただくよりどころとする。 (※東部地域医療の特性上、目標値の設定はせず実施値のみ記載する。)							
目標指標	指標名	診療所利用者数						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	/	/	/	/	/
実績値	6,549	6,120	6,112	5,943				
令和元年度取組内容	指定管理者との管理運営協議会を設置し、情報共有を行うことでより良い診療所運営を行った。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも書えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						5	/
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						5	/
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						5	4
評価点							43	42	

総合点	85
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	協働の相手方である協会(地域医療振興協会)の管理運営のノウハウを活かし、協会が行う他の事業の実績を反映させることができた。また、協会は市立奈良病院の指定管理者でもあるため、市立奈良病院との連携を図ることができた。	奈良市への事業計画及び決算書の提出、毎月の患者数報告により診療所の現状と問題点を共有する事ができた。また、運営に関しては、協会が市立奈良病院の指定管理者であることなども活かして医師の手配などを円滑に行い、診療所の安定した運営をすることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後も互いの協力関係を継続しながらも協会の特性を活かし、自主性・独自性を発揮することにより、地域医療への貢献につなげていく。	施設の経年劣化が著しく、奈良市と協議しながら、適切な補修等を行い患者の利便性と満足度向上に努めたい。

No.	39	事業名	奈良市立興東診療所の運営					
部名	健康医療部		課名	医療政策課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向 ① 地域医療体制の充実 東部・月ヶ瀬・都祁ゾーンの医療ニーズを把握するとともに、地域医療の確保のために各診療所の充実や在宅医療の充実に努める。			
	基本施策	3-05	医療					
	施策	3-05-01	医療の充実					
相手方の名称	公益社団法人 地域医療振興協会		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成28年度				
令和元年度事業費	予算額	10,000		決算額	10,000 (単位：千円)			
事業の概要・目的	医療機関の少ない東部地域において、安定した保健医療サービス(診療、健康診断、健康相談、予防接種等)を行うことにより、地域の住民の方々に安心して健やかな生活を営んでいただくよりどころとする。 (※東部地域医療の特性上、目標値の設定はせず実施値のみ記載する。)							
目標指標	指標名	診療所利用者数						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値					
実績値	322	427	494	472				
令和元年度取組内容	指定管理者との管理運営協議会を設置し、情報共有を行うことでより良い診療所運営を行った。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						5	5
評価点							43	43	

総合点	86
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	協働の相手方である協会（地域医療振興協会）の管理運営のノウハウを活かし、協会が行う他の事業の実績を反映させることができた。また、協会は市立奈良病院の指定管理者でもあるため、市立奈良病院との連携を図ることができた。	奈良市への事業計画及び決算書の提出、毎月の患者数報告により診療所の現状と問題点を共有する事ができた。また、運営に関しては、協会が市立奈良病院の指定管理者であることなども活かして医師の手配などを円滑に行い、診療所の安定した運営をすることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後も互いの協力関係を継続しながらも協会の特性を活かし、自主性・独自性を発揮することにより、地域医療への貢献につなげていく。	近隣住民や患者の方から頂いた意見を情報共有し、問題の解決に努めたいと考えている。又自主性・独自性を発揮することにより地域医療の貢献につなげていく。

No.	40	事業名	20日ならウォーク	
部名	健康医療部		課名	健康増進課
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉	
	基本施策	3-06	保健	
	施策	3-06-01	健康づくり推進	
			展開方向	② 成人保健事業の推進 運動習慣づくりや食生活改善、禁煙等生活習慣病発症の予防を目的とした健康教育・健康相談など身近な保健サービスを提供し、一人ひとりの健康づくりを支援するほか、市民・民間・行政が一体となって健康づくりに取り組む体制づくりを行います。
相手方の名称	奈良市運動習慣づくり推進員協議会		協働事業の実施手法	委託
実施の時期	通年		事業開始年度	平成18年度
令和元年度事業費	予算額	240	決算額	240 (単位：千円)
事業の概要・目的	奈良市運動習慣づくり推進員との協働で、毎月20日に市内をウォーキングする。効果的なウォーキング方法の啓発及び運動習慣の定着を支援し、生活習慣病予防につなげる。			
目標指標	指標名	奈良市運動習慣づくり推進員協議会主催実施回数		
	単位	回	年度	H28 H29 H30 R1 R2
			目標値	11 11 11 11 11
実績値	10 10 8 8			
令和元年度実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングイベント(年1回)及び、屋外ウォーキング(年10回)を実施する。 ・奈良市運動習慣づくり推進員養成講座(隔年実施)を実施する。 ・奈良市運動習慣づくり推進員協議会と活動計画や評価について検討会議を実施する。 			
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由		



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
評価点			45	45

総合点	90
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	奈良市運動習慣づくり推進員協議会に委託することにより、多数の市民を対象に実施することができた。また、推進員同士の協力の下、20日ならウォークの運営を円滑に実施することができた。	目的を達成するまでの過程で不可欠なものは「人間力」であり、いかに「チームワーク」が重要であるか、常に前向きで上を目指す姿勢ならびに、「計画・実行・評価・改善」のサークルの素晴らしさは勉強になりました。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	令和元年度実施の養成講座で奈良市運動習慣づくり推進員協議会に入会した10期生が推進員として活動できるよう育成が必要。また、10期生が20日ならウォークや協議会の運営に携わることにより、推進員一人ひとりの負担を軽減させる。	市民参加者が減少傾向にあり危機感をもち、原因を究明し相互努力で、魅力のある「20日ならウォーク」の復活を期したいです。そのためにも適切・適時な助言や諫言をいただきたいです。

No.	41	事業名	奈良市総合医療検査センターの運営					
部名	健康医療部		課名	医療政策課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向			
	基本施策	3-06	保健福祉					
	施策	3-06-01	健康づくりの推進					
相手方の名称	一般社団法人 奈良市医師会		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成28年度(当該指定管理開始年度)				
令和元年度事業費	予算額	4,201		決算額	4,193 (単位：千円)			
事業の概要・目的	市民の日常の健康増進、疾病の予防及び発見、リハビリテーションまでの包括的な保健医療サービスを効果的に提供するため総合医療検査センターを設置し、人間ドッグ、がん検診及び定期健康診断等の検診事業並びに食事栄養指導、運動指導及び健康講座等の健康増進事業等を実施する。							
目標指標	指標名	センター利用件数						
	単位	件	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	127,500	128,000	140,000	140,000	140,000
実績値	131,806	135,528	137,239	140,302				
令和元年度取組内容	市民の健康の保持・増進、疾病の早期発見及び予防の推進のため、検診受診者の拡大を図るとともに検査事業においては精度管理に努めた。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも書えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
評価点			45	45

総合点	90
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	市医師会が総合医療検査センターの管理運営を行うことにより、検診検査を専門本とする施設の特性を活かし、市民の健康の保持増進を図ることができた。	施設の運営にあたり指定管理者として協働することで、市民の健康の保持増進という目的を共有することができ、各事業の取り組みにおいて協力体制が築けた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	経年による施設の維持補修が必要となっており、予算措置に苦慮している。	施設に関して、日々の即効性を必要とする小規模補修は、業務が滞ると困るので改修を行っているが、大規模補修については、施設の老朽化に伴い今後も増えてきますので、予算措置をお願いしたい。

No.	42	事業名	奈良市食育ネット					
部名	観光経済部		課名	農政課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向			
	基本施策	3-06	保健福祉					
	施策	3-06-01	健康づくりの推進					
相手方の名称	奈良市食育ネット		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成30年5月(旧事業27年度)				
令和元年度事業費	予算額	58	決算額	55	(単位：千円)			
事業の概要・目的	食育基本法及び第3次奈良市食育推進計画(平成31年3月策定)に基づき、食に関する団体(ボランティア、大学、食関連事業者、飲食店等)と協働のもと食育を推進する。農政課は事務局を担い、参加団体をホームページに掲載する。年に1回協働で食育イベントを開催する。(組織改正により、平成31年4月から事務局が医療政策課から農政課になった)							
目標指標	指標名	奈良市食育ネット参加団体数						
	単位	団体数	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	35	45	50	60	65
実績値	43	48	59	60				
令和元年度実施計画	10月26日(土)～27日(日)に食育フェスタを食育ネット主催で開催予定。6月22日(土)食育ネット交流会で概要説明を行う。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価	
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			5
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも書かない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5	
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5		
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	4	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5	
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5	
	評価点			44	44

総合点	88
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	10月末に開催した食育フェスタでは、多くの登録団体が参加し市民に広く食育を周知できた。また、日頃から積極的に広報活動を行うことで、市民への啓発が進んだほか、団体間での刺激となって活発な食育事業が展開した。	様々な立場の関係者が連携・協働するかたちで組織運営が進められている。行政が適切なアドバイスと事務局業務を担い、食育ネットの主体的活動を支援してくれることにより、円滑な運営につながっている。
協働することで見た課題や協働相手に対して求めることなど	各機関からの食育授業・講座の需要に対して、適切な人材を紹介するマッチングの役割など、食育ネットの繋がりをさらなる展開へ繋げたい。	奈良市食育推進計画の目標達成に向け、今後も引き続き多様な関係者による連携・協働の取り組みが必要である。今後とも支援をお願いしたい。

No.	43	事業名	森林保全・緑化推進事業					
部名	観光経済部		課名	農政課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向	⑤	林業の振興	
	基本施策	6-03	農林業			森林環境の保全及び森林を守り育てる意識を醸成します。		
	施策	6-03-01	農林業の振興					
相手方の名称	奈良市巨樹保存等審議会委員		協働事業の実施手法	審議会・委員会等				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成15年度				
令和元年度事業費	予算額	196		決算額	20		(単位：千円)	
事業の概要・目的	森林を保護・育成し森林の保全及び緑化推進の市民意識の向上を図る。また、奈良市巨樹の保存及び緑化の推進に関する条例に基づき、巨樹の保存等に努める。							
目標指標	指標名	保存樹指定本数						
	単位	本	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	26	26	27	27	28
実績値	25	25	25	24				
令和元年度実施計画	巨樹等の指定は平成15年度から開始したが、巨樹等の保存及び緑化の推進は一定の効果が表れており、近年では、新たな指定は少なく、今後の新たな指定については、検討していく。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							
評価点							0	0	

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	新たな巨樹指定の申請がなかったことから、当該審議会の開催がなかった。	
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	44	事業名	自主防災防犯組織活動					
部名	危機管理監		課名	危機管理課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向 ② 防災意識の高揚 <small>自主防災組織の結成率向上、子育て世代の加入促進など組織強化への支援、防災士の育成支援等、組織体制の充実・活性化に努め、防災意識の高揚を図ります。</small>			
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心(防災・消防・防犯・交通安全)					
	施策	4-01-01	総合的な危機管理					
相手方の名称	自主防災防犯組織		協働事業の実施手法	補助・助成				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成18年度				
令和元年度事業費	予算額	18,915		決算額	18,690 (単位：千円)			
事業の概要・目的	各地区の防災防犯力の向上を図り、安全安心な街づくりを推進するため、自主防災防犯組織が行う防災訓練、防犯活動等の各種防災防犯活動を支援する。この際、各地区の自主防災防犯組織の均一的な活性化に留意しつつ、自主防災防犯協議会と合同で防災訓練等を実施するとともに、防災士育成、資機材購入等の防災防犯活動に対して、活動交付金を交付し、自助・共助・公助連携の向上を図る。							
目標指標	指標名	各地区自治連合会等を基本とした自主防災防犯組織の結成率						
	単位	%	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	98	100	100	100	100
実績値	100	100	100	100				
令和元年度実施計画	自主防災防犯組織に自主防災防犯組織活動交付金を交付し、防災訓練、研修会の支援を行い、また、必要に応じて、防災訓練や防災防犯講演会に職員を派遣する。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも書えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	/
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	/
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	
評価点			36	0

総合点	72
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	安全安心まちづくりには、行政主導での事業のみならず、地域が自主的に防災・防犯活動に取り組むことが重要であることへの相互理解が深まった。 また、合同防災訓練の実施により、それぞれが行うべきことの認識を深めるとともに、協働して取り組むことにより、災害に強いまちづくりを促進した。	
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	会長や役員交代により、今まで相互に理解・認識し実施できていた事がうまく引き継がれず、協働で取り組んでいる事項等について、一から説明しなければならないという事象も発生したため、組織内の人材育成や会員増強が今後の課題である。	

No.	45	事業名	独り暮らし高齢者世帯防火訪問					
部名	消防局		課名	予防課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		② 防火、防災における市民等との協働の推進 展開方向 女性防災クラブとの協働による一般家庭防火訪問(住宅用火災警報器の普及促進と出火防止対策)の実施等防火対策の推進と、自力避難困難者取容施設への査察の強化を図ります。			
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心(防災・消防・防犯・交通安全)					
	施策	4-01-02	消防・救急救助体制の充実					
相手方の名称	奈良市女性防災クラブ		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	昭和46年度				
令和元年度事業費	予算額	10	決算額	11	(単位：千円)			
事業の概要・目的	火災時に死傷者の発生する割合の高い高齢者世帯に対する防火啓発により住宅火災の防止、被害の減少を図ることを目的とする。 そのために、70歳以上の独り暮らし高齢者世帯を対象に防火訪問を実施する。							
目標指標	指標名	女性防災クラブ員一人当たり訪問回数の増						
	単位	一人当たり訪問回数	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	1.3	1.7	1.8	1.9	2.0
実績値	1.6	1.8	2.3	2.6				
令和元年度実施計画	各女性防災クラブのクラブ員が、それぞれの地域の独り暮らし高齢者世帯の防火訪問を実施する。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも書えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点			38	41

総合点	79
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	女性防災クラブ員による地道な啓発活動により、消火器や住宅用火災警報器の必要性が地域住民にもかなり浸透してきていると思慮する。	過去10年の中でも最大の実施件数となり本事業が地域においても定着してきていると感じる。クラブ員と地域住民とのコミュニケーションの向上が図れている。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	引続き全クラブでの円滑な防火訪問実施を目標とする。	防火・防災に関する情報や知識の提供と、円滑な事業推進体制への協力

No.	46	事業名	応急手当普及啓発活動事業					
部名	消防局		課名	救急課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境	展開方向	②	防火・防災における市民等との協働の推進		
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全(防災・消防・防犯・交通安全)		市民を対象とした応急手当普及啓発活動を推進します			
	施策	4-01-02	消防・救急救助体制の充実					
相手方の名称	市内在住・在勤者		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成6年度				
令和元年度事業費	予算額	649		決算額	274	(単位：千円)		
事業の概要・目的	応急手当講習会を受講してもらうことにより、応急手当の必要性を認識していただき、病院前救護の充実を図る。							
目標指標	指標名	市民の4人の1人が応急手当講習修了者となること						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	3,360	3,360	3,593	5,053	5,053
実績値	2,521	2,103	2,161	2,252				
令和元年度実施計画	各種事業所・各種団体及び自治会等に対して応急手当講習会の受講を推進し、また、応急手当講習会の広報を継続して行い、各種イベントを通じて応急手当の展示と講習会の広報を実施する。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも書えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点			38	36

総合点	74
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	応急手当の必要性について理解が得られた事により救命率が上昇している。	救命のために行う応急手当の必要性及び重要性が理解できた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	市民の応急手当で傷病者の救命率は高まるが、時間経過とともに義の低下が予想され、また、一定期間ごとに手技等の変更があるため、定期的な受講が必要である。	時間経過とともに、知識・技能が低下する。

No.	47	事業名	市民メディカルラリーの実施					
部名	消防局		課名	消防総務課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向 ② 防火、防災における市民等との協働の推進 行政や地域住民等と消防団が適切な役割分担をしながら相互に連携協力し、地域防災の基盤を確立するとともに、消防団が自主的に推進する事業の強化を図ります。			
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全安心					
	施策	4-01-02	消防・救急救助体制の充実					
相手方の名称	市民メディカルラリー運営委員会		協働事業の実施手法	実行委員会・協議会				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成30年度				
令和元年度事業費	予算額	4,200		決算額	2,338 (単位：千円)			
事業の概要・目的	市民メディカルラリーを通じて地域の防災組織及び防災関係団体等との連携を強化し、地域防災力を高めることを目的とする。							
目標指標	指標名	メディカルラリー参加者数						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値			450	450	中止
実績値			450	160	中止			
令和元年度取組内容	市民メディカルラリーの参加団体に対し、ファーストエイド・こころのケア・トリアージ・避難所アセスメント、心肺蘇生の事前研修(160名参加)を実施した。3月1日実施予定であった市民メディカルラリーは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としたが、事前研修で参加者同士が情報交換を行うことにより、自主防災での訓練、研修等で参加者やスタッフの繋がりを活かしながら、地域防災力の向上を図ることができた。							
今後の方針	縮小	拡大、縮小、廃止の理由	新型コロナウイルス感染症対策の為令和2年度については中止決定					



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	3	3
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	3	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	3
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	3
評価点			34	34

総合点	68
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	医療資格を持たない消防団員や一般市民に対して、「防ぎえる災害死」を減らすことを目的として災害時医療を学んでもらい、医師・救急隊に引き継ぐまでの災害時の初動体制での的確な対処を啓発することが出来た。	令和2年3月1日開催予定であった市民メディカルラリーは新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったが、事前にラリー参加者に対して実施した研修会により、市民の防災に対する知識の向上に努めることが出来た。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後は参加対象を奈良市内在住者に限定する等、規模の縮小も含めた検討をしながら、市民の防災力向上のため事業を継続してほしい。	・災害時の関連死を減らすというコンセプト以外にも、自主防災会、奈良医師会、女性防災クラブ、消防団の連携を強化し、地域の防災力を高めることが必要。 ・連携を考えていく時に、相手(各種団体)が何をやっている(どういうことが出来る)のかをお互い共有することにより、連携がスムーズに進む。

No.	48	事業名	放置自転車対策の推進					
部名	環境部		課名	環境政策課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向 ③ 放置自転車対策 駅周辺の放置自転車の撤去を強化することにより、道路交通の安全と円滑化を図ります。			
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心(防災・消防・防犯・交通安全)					
	施策	4-01-03	交通安全の確保					
相手方の名称	地元商業施設		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成23年度				
令和元年度事業費	予算額	0		決算額	0 (単位：千円)			
事業の概要・目的	地元商業施設の方々の協力を得て、自転車等放置禁止区域内における放置自転車の発生を防ぐ。							
目標指標	指標名	市内放置禁止区域内の放置自転車等の減						
	単位	台	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	2,080	2,060	2,040	2,020	2,000
実績値	1,876	1,653	1,173	900				
令和元年度実施計画	地元商業施設に放置自転車等の情報を提供し、協力して放置自転車等の移動をおこなうとともに自転車等放置禁止区域の周知啓発により放置自転車の発生を防ぐよう努めた。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも書えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	
評価点			36	0

総合点	72
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	情報共有、啓発、移動等により放置自転車は減少傾向にある。	特になし
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	放置自転車の更なる減少を目指し、情報共有を継続していく。	特になし

No.	49	事業名	奈良市自転車駐車場の運営					
部名	環境部		課名	環境政策課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	③	放置自転車対策	
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心(防災・消防・防犯・交通安全)			自転車利用者の利便性を高め、道路交通の安全と円滑化を図るため、民間活力を利用し、駅周辺に自転車駐車場を充実させます。		
	施策	4-01-03	交通安全の確保					
相手方の名称	事業者(ミディ総合管理株式会社)		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成18年度(指定管理者制度導入年度)				
令和元年度事業費	予算額	67,471		決算額	67,463		(単位:千円)	
事業の概要・目的	市内の駅周辺における自転車等の駐車秩序を確立することにより、街の美観を維持するとともに、自転車利用者の駐車利便を図る。							
目標指標	指標名	自転車利用者の利便性を高め、道路交通の安全と円滑化を図る						
	単位	台	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	3,360	3,360	3,360	3,360	3,360
実績値	3,360	3,360	3,360	3,360				
令和元年度実施計画	指定管理者と連絡調整を行いながら、施設のより良い運営に努めた。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価	
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。								5
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも書けない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。							5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。							5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。							5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。							5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。							5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。							5	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。							5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。							3	3
評価点								43	43	

総合点	86
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	利用者の意見や施設管理状況を適時共有し、施設のより良い運営管理を行うことができた。	情報を共有することによって、迅速かつ丁寧なサービスを提供することができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	放置自転車の更なる減少を目指し、情報共有を継続していく。	情報共有を密にし、より質の高い運営管理を行う。

No.	50	事業名	地域防犯活動推進事業					
部名	危機管理監		課名	危機管理課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	③	地域の防犯力の強化	
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心(防災・消防・防犯・交通安全)			防犯意識の普及及び防犯施策を推進することにより、犯罪や事故等のない明るく住みよい地域社会を推進する。		
	施策	4-01-04	防犯力の充実					
相手方の名称	奈良／奈良西警察署生活安全課		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成21年度				
令和元年度事業費	予算額	7,739		決算額	7,554		(単位：千円)	
事業の概要・目的	奈良市安全安心まちづくり基本計画に基づき、安全で安心して暮らせるまちづくりを推進するため、市民が自らの安全は自ら守り、地域の安全は地域で守るという自主防犯意識を高めるため、市民や自主防犯組織などの団体を対象とした防犯教室を実施する。							
目標指標	指標名	防犯教室実施回数						
	単位	回	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	8	11	14	17	20
実績値	8	12	23	36				
令和元年度実施計画	奈良市安全安心まちづくり基本計画に基づき、安全で安心して暮らせるまちづくりを推進するため、市民が自らの安全は自ら守り、地域の安全は地域で守るという自主防犯意識を高めるため、市民や自主防犯組織などの団体を対象とした防犯教室を実施する。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも書えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						4	
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						4	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						4	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						4	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						4	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						3	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						3	
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						4	
評価点							34	0	

総合点	68
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	互いの予定を調整することにより、防犯教室の回数を増やすことができた。また防犯教室の内容に関して、お互いの分野の情報を発信することで、効果的な啓発活動を実施することができた。	
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	お互いの意見を意見をフィードバックする場を設けることが出来なかった。情報共の体制強化に努めたい。	

No.	51	事業名	奈良市地球温暖化対策地域協議会					
部名	環境部		課名	環境政策課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	②	地球温暖化対策の推進	
	基本施策	4-02	環境保全			奈良市地球温暖化対策地域協議会等を通じ、市民、事業者、行政等あらゆる主体が協働し、環境教育、エコバッグの普及等3Rの推進や公共交通機関の利用促進及び省エネを実践できる仕組みづくりなど温室効果ガスの排出量を削減し、地球温暖化対策の推進に取り組みます。		
	施策	4-02-01	環境にやさしい社会の構築					
相手方の名称	市民・NPO・事業者など		協働事業の実施手法	実行委員会・協議会				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成21年度				
令和元年度事業費	予算額	628		決算額	628		(単位：千円)	
事業の概要・目的	市民(個人・団体)、NPO、事業者、学識経験者、行政などが対等な立場で和をもって協議を行い、パートナーシップにより地球温暖化対策等の活動を推進し、環境(エコロジー)も経済(エコノミー)も持続可能な社会をめざす。							
目標指標	指標名	環境行事実施回数						
	単位	回	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	20	23	25	27	30
実績値			24	24	18	25		
令和元年度実施計画	温室効果ガス排出削減に向け、市民・市民団体・事業者等と協働し、省エネ(市民の省エネへの取組を支援する)・3R(プラスチックフリーの取組)・公共交通の利用促進、環境学習等の様々な分野で活動を展開した。 その他、主催事業や他団体との連携事業にも取り組んだ。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも書えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						4	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						4	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						3	3
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						3	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						2	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						3	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						2	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						2	4
評価点							29	41	

総合点	70
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	種々の立場の人間が、共通の目的を持って活動することにより、会員同士のネットワークの構築に寄与し、個々の取り組みにおいても協働ができている。	行政が関わることでしっかりした事務的支援や信頼を得られ、啓発誌の取材や配布、環境イベントでの展示説明、市内の教育機関への出前講座など、市民レベル単独ではできない充実した活動によって、地球温暖化対策への市民の理解浸透が実施できている。
協働することで見た課題や協働相手に対して求めることなど	各人が、関心のある分野に対してのみ活動を進めていく傾向があり、他の分野の活動で手助けが必要な場合に、協力しているメンバーが固定化されつつある。また、運営に主に関わるメンバーが固定化されている。総会にて新たな役員を選出し、体制の見直しについて検討し、協議会の活性化を求めたい。	会員の多くは他の活動グループにも属している者が多く、当協議会の活動に時間が取りにくいことは課題であり、会員を増やす工夫が必要である。体制を見直し、固定されたメンバーだけでなく、新たな会員にも参加してもらいやすい環境づくりを求めたい。

No.	52	事業名	ECOキッズ！ならの子ども					
部名	環境部・教育部		課名	環境政策課・学校教育課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境	展開方向	① 環境保全行動の推進 <small>子どもから大人までそれぞれの発達段階に応じた環境教育を推進することにより、一人ひとりが自発的に気付き、学び、行動する心を育成します。</small>			
	基本施策	4-02	環境保全					
	施策	4-02-01	環境にやさしい社会の構築					
相手方の名称	市民・市民団体等		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成25年度				
令和元年度事業費	予算額	1,143		決算額	1,016 (単位：千円)			
事業の概要・目的	次世代を担う子ども達に環境問題や省エネ・節電などライフスタイルに対する気づきを与え、環境保全を推進する人材を育成するため、市立全小学校3年生を対象に、地球温暖化防止や省エネなどの環境に関する出前授業を行う。							
目標指標	指標名	夏・冬休みに家庭で取り組むエコチャレンジを実施した割合						
	単位	%	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	100	100	100	100	100
実績値	92	89	80	92				
令和元年度実施計画	市立小学校3年生全クラスを対象として、地球温暖化防止や省エネなどの環境に関する出前授業を実施した。カリキュラムについては、これまでに実施した市立小学校からの意見を参考に、推進部会を開催し改善を図った。出前授業実施後には、定着を図るための振り返りとして、エコライフに関する6つの項目について家庭で取り組むエコチャレンジを夏・冬休みに実施した。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価
	対等性	相互理解				
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。			5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。			5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。			5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。			5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。			5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。			4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。			5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。			3	2
評価点					42	41

総合点	83
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	教育現場に教員以外の講師を派遣することで、子ども達と地域の人々とのコミュニケーションが生まれるとともに、教員への波及効果が期待され、環境保全に対する興味や意識が向上することが期待される。	自分たちの身近な問題について児童自身が、生活をふり返りながら考えることができた。事前の打ち合わせにより、安心して講座を進めることができた。
協働することで見た課題や協働相手に対して求めることなど	当該学年の担任は毎年変更するため、事業概要、目的をきちんと説明し理解を求めた上で、協働による事業推進の円滑化を図る必要がある。	新たに導入したフォローアップ講座(2回講座)を活用する小学校が少なく、授業時間の確保とマッチングする方法を検討したい。

No.	53	事業名	アダプトプログラム推進事業「さわやかクリーン奈良」					
部名	市民部		課名	地域づくり推進課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	①	環境美化活動の推進	
	基本施策	4-03	生活・環境衛生			アダプトプログラム推進事業を実施し、地域のボランティアによる道路、河川等の公共施設の美化活動を支援します。		
	施策	4-03-01	環境美化の推進					
相手方の名称	自治会・ボランティア団体・事業者等		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成20年度				
令和元年度事業費	予算額	3,204		決算額	3,160		(単位：千円)	
事業の概要・目的	市民の方々による身近な道路、河川等の公共施設の美化活動を通して地域コミュニティの再生を図る。							
目標指標	指標名	活動団体の増						
	単位	団体	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	64	66	83	85	87
実績値	60	81	92	104				
令和元年度実施計画	ホームページやしみんだより、情報誌「りろば」を通して参加団体を募集し、市の支援として、報奨金10,000円、ごみの回収、90Lのごみ袋の提供、ボランティア活動保険への加入を行う。また、報奨金を希望しない団体は、ごみ袋45L及び90Lの支給、ごみの回収、ボランティア活動保険への加入を行う。活動に参加する等して集めた団体の声を基に、手続き方法の改善や活動の推進・拡大を図っていく。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 ← ← → → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかつた どちらとも書えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	2
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点			37	35

総合点	72
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	市が活動支援を行い、地域の有志の団体が美化活動を行うことで、「自分たちのまちを自分たちの手できれいにしよう」という意識の広がりや地域でのつながりが生まれた。また、団体が増加したことも相まって、より一層地域コミュニティの再生につながった。	<ul style="list-style-type: none"> 地域がきれいになった 地域の親睦が深まった
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	それぞれの団体によって清掃方法が異なるため、すべての団体ニーズに沿うことができない。	<ul style="list-style-type: none"> メンバーの高齢化、担い手不足。 団体相互の交流の場を設ける。

No.	54	事業名	佐保川清掃	
部名	環境部		課名	まち美化推進課
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境	
	基本施策	4-03	生活・環境衛生	
	施策	4-03-01	環境美化の推進	
展開方向	①		環境美化活動の推進	
<small>アダプトプログラム推進事業を実施し、地域のボランティアによる道路、河川等の公共施設の美化活動を支援します。</small>				
相手方の名称	佐保川清掃対策委員会		協働事業の実施手法	事業協力
実施の時期	春		事業開始年度	昭和34年
令和元年度事業費	予算額	0	決算額	0 (単位：千円)
事業の概要・目的	地域住民の方々のボランティア活動により佐保川の美化活動を行う。			
目標指標	指標名	美化活動への参加人数		
	単位	人	年度	H28 H29 H30 R1 R2
			目標値	1,500 1,500 1,500 1,550 1,550
実績値	1,200 1,200 1,200 1,200			
令和元年度実施計画	地域住民のボランティア活動による佐保川の美化活動を推進するため、前年に引き続きごみの収集・運搬処理の支援を行う。			
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由		



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少してきた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	
評価点			41	0

総合点	82
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	美化活動とともに、水辺に棲む生物の生活環境を保持し、「自分たちの手で自分たちのまちの美化を促進する」という意識を保持することが出来た。	
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	自主的な参加が減っている。	

No.	55	事業名	人と動物がともに暮らせるまちづくり事業					
部名	健康医療部		課名	保健衛生課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境	展開方向	②		人と動物がともに暮らせるまちづくり事業	
	基本施策	4-03	生活・環境		<small>狂犬病に対する認識や動物愛護の意識の高揚に努めるとともに動物の正しい飼い方を啓発し、人と動物が良きパートナーとして共に暮らせるまちづくりを推進する</small>			
	施策	4-03-02	生活・環境衛生の向上と増進					
相手方の名称	自治会		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成15年度				
令和元年度事業費	予算額	59	決算額	43	(単位：千円)			
事業の概要・目的	自治会を通じて動物の適切な飼い方に関するポスターを配布し掲示してもらうとともに、地域住民との意見交換を行い、良い意見を反映させていくことで、飼い主のマナー啓発に努める							
目標指標	指標名	ポスター配布枚数						
	単位	枚	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	800	800	800	800	800
実績値	451	575	491	303				
令和元年度取組内容	<p>動物の飼い方に関する苦情・相談を集約・整理しながら、市の各自治会と連携し、動物の適切な飼い方についてのポスターを配布した。そのうえで、動物に関する迷惑行為防止の取り組みについて意見交換を行い、有効な取り組みについては市全体に発信するなど、人と動物がともに暮らせるまちづくりを推進する取り組みを自治会と協議で構築した。</p> <p>また、災害発生時の「ペット同行避難」について、市民の理解を深め、平常時から備えておくことの重要性を啓発するため、ポスターを作成し配布した。</p>							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	3
評価点			41	35

総合点	76
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	

総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	市と自治会がともに動物に関わる迷惑行為防止等の取組を行うことにより、動物の適正飼養に対する意識を高めるとともに、飼い主に対しマナー啓発を行うことで、人と動物がともに暮らせるまちづくりの推進を図ることができた。	継続してポスターを掲示することにより動物に関する迷惑行為に対して一定程度の抑止効果があったと思われる。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	動物に対する意識の隔たりが大きく、合意の形成に時間を要すると感じる。ポスターを契機として地域住民への啓発を根気よく継続することを望む。	飼い主のマナー啓発には限りがあり、迷惑行為をする本人に直接注意できる訳ではないため迷惑行為を根絶することは難しい。

No.	56	事業名	環境フェスティバル、ならクリーンフェスタ					
部名	環境部		課名	廃棄物対策課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向 ① ② ごみ減量・リサイクルの推進 <small>ごみの2R施策に重点を置いた啓発活動として、各種市民団体と連携・協議した広報及び啓発活動を展開し、家庭系ごみの減量を図ります。また、ごみの排出事業者等に対し、関係法令に則った指導・啓発を強化し、不適正なごみの搬入を抑制することにより、事業系ごみの減量を図ります。</small>			
	基本施策	4-04	廃棄物処理					
	施策	4-04-01	一般廃棄物の処理					
相手方の名称	奈良市ごみ懇談会		協働事業の実施手法	共催				
実施の時期	年1回		事業開始年度	平成6年度				
令和元年度事業費	予算額	174		決算額	106 (単位：千円)			
事業の概要・目的	全国的に制定されている3R(スリーアール)推進月間などの時期に、本市の取組として廃棄物に関する問題意識の高揚とごみ減量・リサイクル促進の必要性を訴えるため、啓発活動の一環として開催する。							
目標指標	指標名	イベントへの参加者数の増加						
	単位	人/回	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	6,000人/2回	6,000人/2回	6,000人/2回	3,000人/1回	3,000人/1回
実績値	3,000人/1回	3,000人/1回	6,000人/2回	3,000人/1回				
令和元年度取組内容	しみんだより及びホームページ等を用いてフリーマーケット出店者を公募し応募者から抽選を行い決定した。市民団体には準備段階から関わっていただき、イベント当日は当選した市民へフリーマーケットのスペースを提供し、市民団体には各々の特性を生かした3Rへの啓発を展開した。また、奈良市手をつなぐ親の会においては、会場にてリサイクル自転車等の販売を行った。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	3	3
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	3	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
評価点			38	38

総合点	76
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	本庁開催ということもあり、イベント参加者の変化があった。特に飛び込み来場者(通りがかりの人達)の集客があり新規獲得となった地域とのコミュニケーションで深く減量について考えていただくきっかけとなった。	今回は場所が今までのクリーンセンターではなく、本庁舎前の広場だったので勝手が違って展示物がうまく展示できなかったり、職員さんの手も足らなくて戸惑うこともあったが協力し合って市民にごみの減量を伝えることができたと思う。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	イベントや取り組みを行う際には、今回はどういった目的を持った活動であるか、今回のゴール・目的は何なのかということ、住民を含め関わる全ての人が共有しておく必要がある。目的や方向性を示すことが出来る仕組みづくりが重要だと感じた。	場所が今までと違うことで、来場者の顔ぶれが少し変化してごみの減量についてかなり深い質問をされる方がいて、参加者が即答できないときもあったので、市の取り組みをもっと良く身に着けておかなければと思う場面があった。普段から話し合いの必要を感じた。

No.	57	事業名	ごみ減量キャラバン					
部名	環境部		課名	廃棄物対策課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向 ① ② ごみ減量・リサイクルの推進 <small>ごみの2R施策に重点を置いた啓発活動として、各種市民団体と連携・協議した広報及び啓発活動を展開し、家庭系ごみの減量を図ります。また、ごみの排出事業者等に対し、関係法令に則った指導・啓発を強化し、不適正なごみの搬入を抑制することにより、事業系ごみの減量を図ります。</small>			
	基本施策	4-04	廃棄物処理					
	施策	4-04-01	一般廃棄物の処理					
相手方の名称	ごみ懇談会等		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成24年度				
令和元年度事業費	予算額	136		決算額	54 (単位：千円)			
事業の概要・目的	啓発活動により、より多くの市民に、廃棄物の課題を認識していただき、ごみの減量及び3Rの促進に取り組んでいただく。							
目標指標	指標名	キャラバンの参加者数の増加						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	600	600	600	600	600
実績値	396	570	292	803				
令和元年度取組内容	奈良市内の公民館や自治会を回り、ごみの分別・減量や3Rの実践活動の広報する講演会を開催した。また、小学校やこども園向けの内容も作成し、要望を受けて出前講座を実施した。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価	
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5	
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	5	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4		
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	4	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5	
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5	
	評価点			42	43

総合点	85
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	ごみ懇談会のメンバーが講師をすることで、市民の立場(同じ目線)でごみ減量手法やごみ分別について話していただけ、また市民の持つ問題や不安を知ることができ、生の声やアンケートを基に市の具体的な施策の参考になりました。	市民に伝える内容は市とは違う角度から発信できるので市からは市の取り組み、会員からは現在のごみの状況を広く伝えることができるので参加する市民に広い範囲の情報を提供できる。
協働することで見た課題や協働相手に対して求めることなど	事業開始から8年経過している、公民館等で毎年や数年に1度は呼んでいただいているところがあり、市民に協力してもらっている減量がどのように反映されているかのフィードバックで検証することもされたい。	市からの情報提供と会員からの情報提供が被ることがあるので事前にお互いの話す内容をよく打ち合わせて過不足を確認しておく必要があると思った。市民からは直接市の職員さんに話を聞く機会なのでこの時間を有効に使って欲しい。

No.	58	事業名	陶磁器製食器類リユース・リサイクル事業					
部名	環境部		課名	環境政策課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	①	ごみ減量・リサイクルの促進	
	基本施策	4-04	廃棄物処理			ごみの2R施策に重点を置いた啓発活動として、各種市民団体等と連携・協働した広報及び啓発活動を展開し、家庭系ごみの減量を図ります。また、ごみの排出事業者等に対し、関係法令に則った指導・啓発を強化し、不適正なごみの搬入を抑制することにより、事業系ごみの減量を図ります。		
	施策	4-04-01	一般廃棄物の処理					
相手方の名称	関西ワンディッシュユエイド協会		協働事業の実施手法	委託				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成27年度				
令和元年度事業費	予算額	3,217		決算額	2,674		(単位：千円)	
事業の概要・目的	定期回収拠点(コープおしくま、コープ七条、はぐくみセンター)や奈良市の主催イベント等にて、家庭で不用になった陶磁器製食器類を持ち込んでいただき回収するとともに、持ち帰りたい食器があれば配布する「もったいない陶器市」を開催する。本事業を通じて、ごみの2R(発生抑制、再使用)を促進し、ごみに対する意識の高揚を図る。							
目標指標	指標名	陶磁器製食器のリユース率						
	単位	%	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	58	59	62	63	64
実績値	61	61	61	65				
令和元年度取組内容	今年度はコープおしくま、コープ七条、はぐくみセンターの3箇所を拠点とし、各拠点で月1回ずつ定期開催を行う。これに加え、奈良市役所での休日開催と市主催のイベント等においても開催するとともに、リユース市の開催の検討も行った。なお、各場所での開催状況を踏まえ、より効果的な開催場所への変更・拡大を適宜検討した。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも書えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						4	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						5	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						5	5
評価点							44	45	

総合点	89
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	コープおしくま等3拠点で定期開催を継続し、ごみの2Rを啓発し続けたことにより、例年の実績値より高いリユース率を達成することが出来た。	奈良市内3カ所の拠点とともに、広く市民の方々に周知され当日のリユース率は60%にまで達した、このことから陶磁器食器の2Rが促進されゴミ減量に貢献出来た。
協働することで見た課題や協働相手に対して求めることなど	開催場所によって実績値に差があるため、今後はさらなる周知を進める必要がある。また、2年ぶりに開催したりユース市について、特定の市民が買い占めず幅広く市民が参加できるように対策を求めらる。	市民の方々の関心は非常に高く、これからの陶磁器食器の回収方法や配布に、より安心安全な対策を考え協力をお願いしたい。

No.	59	事業名	なら・まちかど景観発掘隊					
部名	都市整備部		課名	都市計画課				
総合計画上の位置付け	章	5章	都市基盤					
	基本施策	5-02	景観					
	施策	1-02-01	奈良らしい景観の形成					
展開方向	④ 協働による景観まちづくり 地域の貴重な景観資源を発掘し、それを市民一人ひとりが活用できる景観施策を推進します。							
相手方の名称	自治会・ボランティア団体		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成22年度				
令和元年度事業費	予算額	329	決算額	0 (単位：千円)				
事業の概要・目的	自治会やボランティア団体と市との協働により、なら・まちかど景観発掘隊と題し一般の方々を募り、街歩き計画を立て、街歩きを通じて私たちの住む街角にある、ちょっとした素晴らしい景観スポットを発掘する。これを景観資源として蓄積し、観光や街の活性化につなげていく。							
目標指標	指標名	活動団体数の増						
	単位	団体	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	2	2	3	2	2
実績値	1	1	1	1				
令和元年度実施計画	地域団体の方々と市との協働により、なら・まちかど景観発掘隊と題し一般の方々を募集し、街歩きを案内する。その中で景観スポットを発掘するワークショップを行い、地域の景観資源として蓄積し、観光や街の活性化につなげていく。また、その成果を周知することにより、活動団体の増加を図る。							
今後の方針	縮小	拡大、縮小、廃止の理由	人員不足により継続は困難					



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 ← ← → → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しかつた どちらとも書えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	—
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	5
評価点			40	38

総合点	78
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	身近な場所での景観資源の新たな発見により、奈良らしい景観を普段から意識していただくきっかけづくりができた。	奈良の素晴らしいと思える景観について、意識を高めることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	協働で活動しているボランティア団体は、高齢の方が多数を占めている。若手の参加者を増やすことが求められる。	今後も市と協力して景観資源の発掘などの活動を継続したいと思う。

No.	60	事業名	違反広告物を出さない街づくり推進団体					
部名	都市整備部		課名	都市計画課				
総合計画上の位置付け	章	5章	都市基盤		展開方向 ④ 協働による景観まちづくり <small>景観まちづくり市民組織の結成、育成を支援するとともに、各組織のネットワーク化を図ります。</small>			
	基本施策	5-02	景観					
	施策	1-02-01	奈良らしい景観の形成					
相手方の名称	自治会・2名以上のボランティア団体		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成16年度				
令和元年度事業費	予算額	88		決算額	58 (単位：千円)			
事業の概要・目的	古都奈良にふさわしい景観となるよう、道路などに掲出された違法な簡易広告物を市民の方々に除却していただき、その活動を通じて地域の景観を守る意識を高めていただく。							
目標指標	指標名	活動団体数の増加						
	単位	団体	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	38	46	54	58	60
実績値	43	47	49	49				
令和元年度実施計画	しみんだよりや市ホームページによる広報に加え、関係団体にも積極的に働きかけ、活動団体数の増加を図る。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも書えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	4
評価点			43	44

総合点	87
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	違反広告物を出さない街づくり推進団体との協働によって、地域の景観を守る意識が高められた。	活動当初と比べて簡易広告物の除去件数が減少していることは、活動の成果である。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	より多くの市民の方々に景観の意識を高めてもらうために、活動団体の増加を目指す。	除去件数が減少しているため、今後は活動の意義をPRすることが課題である。

No.	61	事業名	グリーンサポート制度					
部名	市民部		課名	地域づくり推進課				
総合計画上の位置付け	章	第5章	都市基盤	展開方向 ① 公園・緑地の管理や運営の多様化 公園ボランティア制度やグリーンサポート制度などを活用し、市民等との協働による公園・緑地の管理運営を推進します。				
	基本施策	5-06	公園・緑地					
	施策	5-06-01	公園・緑地の整備					
相手方の名称	自治会等地域の団体		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成20年度				
令和元年度事業費	予算額	13,686	決算額	12,988 (単位：千円)				
事業の概要・目的	市民が公園を快適かつ安全に利用できるようにするとともに、市民の自主的な活動の推進を図る。							
目標指標	指標名	グリーンサポート制度による公園管理率						
	単位	%	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	32	34	36	38	36
実績値	28	31	33	34				
令和元年度実施計画	情報紙「りろば」の発行やしみんだより、ホームページの広報活動等により市民への周知に努め、団体数の増加を図る。また、活動に参加する等して集めた団体の声を基に、手続き方法の改善や公園維持管理活動の推進・拡大を図っていく。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 ← ← → → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	2
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点			40	34

総合点	74
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	グリーンサポート制度に登録する公園は167公園127団体となり、市民等との協働により公園の美化が保たれ、適正に公園を管理できた。登録団体の増加に繋がり、地域の親睦も深まっている。	地域がきれいになった、親睦が深まった。子供たちが公園で遊ぶようになった。自治会行事に公園を利用する機会が増えた。1年中、草が刈られているので、子供が公園で遊べるようになった。公園を美しいと言ってくれる子供がいた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	地域内でより幅広い年齢層が協力して参加できるよう、地域自治協議会ごとに公園管理を行う仕組みへの移行を検討している。	もう少し活動予算を増やしてほしい。公園緑地課との連携。

No.	62	事業名	なら燈花会開催事業					
部名	観光経済部		課名	観光戦略課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向 ① 観光資源・施設の整備・充実			
	基本施策	6-01	観光					
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	特定非営利活動法人 なら燈花会の会		協働事業の実施手法	補助・助成				
実施の時期	8月5日～14日		事業開始年度	平成11年度				
令和元年度事業費	予算額	10,000		決算額	10,000 (単位：千円)			
事業の概要・目的	観光閑散期の奈良の夏に多くの観光客を呼び込むため、奈良公園内の7カ所の会場で毎夜約300人を超えるボランティアの人力によって20,000個のろうそくを灯し、歴史的建造物等のライトアップを含めた夏の祭典として、なら燈花会を開催する。							
目標指標	指標名	期間中の来訪者						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
実績値			911,000	975,000	951,000	945,000		
令和元年度取組内容	しみんだより・観光パンフレット・ホームページ、公共施設へのチラシ・ポスター設置等を通じ、ボランティア募集を積極的に展開する。また、「なら燈花会支援会議」に参画し、関係団体と一体になったPR活動に努める。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価	
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			5
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも書えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5	
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5		
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	5	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4	
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5	
	評価点			43	43

総合点	86
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	経費的、内容的に行政だけでは賅いきれない規模の事業だが、「特定非営利活動法人 なら燈花会の会」による企画運営と、多くのボランティアの協力によって夏の奈良の風物詩として認知されている。また、ボランティアをはじめとする多くのスタッフが奈良を訪れることにつながり、奈良を愛する心を育むことができた。	経費的、内容的に行政だけでは賅いきれない規模の事業だが、「特定非営利活動法人 なら燈花会の会」による企画運営と、多くのボランティアの協力によって夏の奈良の風物詩として認知されるに至った。また、この事業が継続されることにより、ボランティアをはじめとする多くのスタッフ一人一人が奈良を訪れることにつながり、奈良を愛する心を育むことができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	10日間の開催のため期間を通じて一定数のボランティアを確保することが困難になりつつあり、また役員の後継者不足も見受けられる。	多くのボランティアにより継続できているが、役員の後継者不足が見受けられる。

No.	63	事業名	ガイド付きツアー					
部名	観光経済部		課名	観光戦略課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向 ② 観光客受入体制の充実 着地型観光(目的地である着地側で企画する観光)の内容の充実と、広報の強化に努めます。			
	基本施策	6-01	観光					
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	なら・観光ボランティアガイドの会		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	7月・8月・12月・1月を除く通年		事業開始年度	平成22年度				
令和元年度事業費	予算額	200		決算額	200 (単位：千円)			
事業の概要・目的	観光ボランティアガイドの解説のもと、観光客の皆様は歴史の残る奈良を歩いて、学び、楽しんでもらう。							
目標指標	指標名	ガイドツアー参加者(集客)の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
実績値	638	601	897	942				
令和元年度取組内容	観光ボランティアガイドの解説のもと、観光客の皆様は歴史の残る奈良を歩いて、学び、楽しんでもらう。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも書かない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
評価点			41	43

総合点	84
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	利用した観光客からの評価は高く、満足していただいている。また、協働相手と密に連絡をとることによって、利用者からの感想が聞ける。	行政との情報交換を進めながら、より魅力的なコース設定やテーマ設定を行った結果、お客様から高い評価を得ることが出来、また参加したいという声を沢山頂いている。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	利用者からの評価は高く、コース内容に変化を持たせることにより、コロナの影響により3月は中止したに関わらず、31年度の参加人数が増加したため、さらなる魅力的なコースの造成を期待する。	全てのガイド付きツアーでコース変更を行ったが、特に秋のツアーでは新規ルート設定に加えツアーのタイトルも変えることで、お客様に新規性のアピールが出来、参加人数の大幅増に繋がった。今後も更なる情報交換を進めより魅力的なコースやテーマ設定を行ってきたい。

No.	64	事業名	しあわせ回廊～なら瑠璃絵～開催事業					
部名	観光経済部		課名	観光戦略課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向 ① 観光資源・施設の整備・充実 オフシーズンである冬の時期に「珠光茶会」や「しあわせ回廊なら瑠璃絵」を開催し、1年を通じて観光客が訪れる観光資源を育てます。			
	基本施策	6-01	観光					
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	なら瑠璃絵実行委員会		協働事業の実施手法	補助・助成				
実施の時期	2月8日～2月14日		事業開始年度	平成21年度				
令和元年度事業費	予算額	8,000		決算額	8,000 (単位：千円)			
事業の概要・目的	春日大社本殿、東大寺大仏殿、興福寺東金堂の夜間拝観の実施や、奈良国立博物館の夜間開館、三社寺をつなぐ奈良公園内におけるLEDライト等によるあかりの演出などを行う。							
目標指標	指標名	期間中の来訪者						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000
実績値	386,000	369,000	412,000	315,000				
令和元年度取組内容	しみんだより・観光パンフレット・ホームページ等を通じ、PRを積極的に展開する。また、「なら瑠璃絵推進委員会」に参画し、関係団体と一体になったPR活動に努める。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつきた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	3	3
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	3	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	3
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
評価点			39	39

総合点	78
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	「なら瑠璃絵実行委員会」による企画運営と、多くのボランティアの協力によって経費的、内容的に行政だけでは賅いきれない規模の事業の実施が可能となった。	新型コロナウイルスの対応について、当時は情報が少なく混乱があった中、迅速かつ適切な公的機関情報を共有いただき、こういった準備が必要かを共に考え、安全に開催することができました。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	冬季イベントということもあり、当日のボランティアを確保することが困難。	新しい感覚や意見を前向きに取り入れ、お互いに協力し、よりよい事業にしていきたい。

No.	65	事業名	バサラ祭り開催事業					
部名	観光経済部		課名	観光戦略課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向			
	基本施策	6-01	観光					
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	特定非営利活動法人 バサラ衆		協働事業の実施手法	補助・助成				
実施の時期	8月末		事業開始年度	平成10年度				
令和元年度事業費	予算額	1,500		決算額	1,500 (単位：千円)			
事業の概要・目的	「バサラ祭り」は市民参加型の祭りで、それぞれ工夫を凝らしたコスチュームを着たダンスチームが各会場を踊りながらパレードを行うものであり、奈良の夏の顔の一つとして実施する。							
目標指標	指標名	期間中の来訪者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000
実績値	27,000	30,000	32,700	34,000				
令和元年度取組内容	来訪者を増やすため、事業実施について協議し、実行委員会と共に、ポスター・チラシ、観光ウインドー等で広報活動を行う。また円滑な運営のため、開催期間中は参加車両の駐車場等で協力する。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも書えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点			41	41

総合点	82
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	「バサラ祭り実行委員会」による企画運営と、多くのボランティアの協力によって経費的、内容的に行政だけでは賅いきれない規模の事業実施が可能となった。また、この事業に参加することにより、ボランティアをはじめとする多くのスタッフ、出演者一人一人が奈良を訪れる観光客に対する「おもてなしの心」を醸成するとともに、地域に関わる誇りと愛着を持つことにつながり、奈良を愛する心を育むことができ、地域の活性化にも貢献できた。	道路や駅前広場といった公共空間を舞台にすることが多いため、市の支援を得ることで関係諸団体の理解も得やすくなっている。また告知等についても広報誌や記者クラブを通じてのアピール、観光ウインドウなどの展示多くの協力をいただき、広く市民にアピールできた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	地域での認知度が高まってきたので、今後のイベントの拡大・発展が課題である。	行政の持つ資源を活用し祭りを盛り上げることで、奈良市中心部の活性化や奈良の魅力の発信に繋げていきたいと考えている

No.	66	事業名	月ヶ瀬梅林周遊道路整備					
部名	建設部		課名	道路建設課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向	① 観光資源・施設の整備・充実		
	基本施策	6-01	観光			梅林周遊道路の整備を行い、観光ネットワークのひとつとしての環境整備を図ります。		
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	梅林周遊道路改修委員会		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成17年度				
令和元年度事業費	継続	50,000	決算額	24,418	(単位：千円)			
事業の概要・目的	地元自治会選出の代表メンバーとして設置された「梅林周遊道路改修委員会」と調整及び協議を図りながら、名勝「月ヶ瀬梅林」を周遊する道路を整備し、地域住民の利便性を向上させるとともに、観光客の安全と地域観光の活性化を図る。							
目標指標	指標名	道路の整備延長 L=1280m						
	単位	m	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	100	100	100	100	106
実績値	88	0	220	160				
令和元年度実施計画	本年度については、残っている全ての用地取得手続きを完了し、併せて終点付近までの整備を実施予定。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも書えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						4	3
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						3	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						4	3
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						3	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						3	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						3	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						4	3
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						4	4
評価点							35	34	

総合点	69
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	委員会が地権者、関係者との調整役を行い事業の推進に貢献された。	互いの役割分担を明確にし、事業に関して対等な関係で意見交換できた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	地権者との各協議事項について、協働することでおおまかな方向性を出すには効率がよいが、細かな調整を行うことにかえて時間要するケースがある。	工事施工法等について、もう少し柔軟な対応をお願いしたい。

No.	67	事業名	転害門前観光駐車場の運営					
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向 ① 観光資源・施設の整備・充実 <small>歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイレや案内看板等の環境整備を図ります。</small>			
	基本施策	6-01	観光					
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	ミディ総合管理株式会社		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成18年度(指定管理者制度導入年度)				
令和元年度事業費	予算額	2,948		決算額	2,948 (単位：千円)			
事業の概要・目的	観光客及び市民の駐車場の便宜を図るために駐車場を設置し、指定管理者制度にて運営管理を行う。							
目標指標	指標名	駐車利用台数の増						
	単位	台	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	5,400	5,500	6,724	6,900	7,000
実績値	5,970	6,625	7,297	6,941				
令和元年度実施計画	月報の報告時など指定管理者と定期的に情報共有を行うとともに、たびたび現地への訪問も行う。施設の安全性、利便性の向上及び利用促進並びに経費節減に努め、利用者に喜んでいただける駐車場にするための管理運営を行う。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも書えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点			37	36

総合点	73
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	駐車場の運営で大きな問題もなく、利便性の向上に努めた。また、安全への取組も積極的に行った。	民間での商売としての考え方と市民サービスとしての考え方の違い等相互理解ができたと思います。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	現状の運営を継続した上で、更なる安全の向上に努めてほしい。	特にありません。

No.	68	事業名	奈良市ならまち格子の家					
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向 ① 観光資源・施設の整備・充実 <small>伝統芸能や工芸など体感・体験できる体制を整えます。</small>			
	基本施策	6-01	観光					
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	ならまち格子の家指定管理者コンソーシアム		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成18年度(指定管理者制度導入年度)				
令和元年度事業費	予算額	4,208		決算額	4,208 (単位：千円)			
事業の概要・目的	ならまちの伝統的な町家を再現し、観光客及び市民の観覧と利便に供するとともに、町並み保全に資するために格子の家を運営する。							
目標指標	指標名	入館者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	100,000	105,000	100,000	115,000	120,000
実績値	100,390	95,383	85,152	77,933				
令和元年度実施計画	指定管理者と定期的に情報共有を行うことで、より良い施設運営を行う。また、奈良市から積極的に観光情報を提供し、地元の方と、地域に根差したより良い観光案内を行うとともに、指定管理者による自主事業の充実を図る。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも書えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	3	3
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	3	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	3	3
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	3	3
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	3
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	3
評価点			28	30

総合点	58
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				C
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	訪日外国人を含め、多くの観光客へ町家の良さを周知する事が出来た。	特になし
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	特になし	洋式トイレへの改修をお願いします 最低賃金・消費税増額に伴い指定管理料の増額を求めます

No.	69	事業名	奈良町からくりおもちゃ館					
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向 ① 観光資源・施設の整備・充実 <small>伝統芸能や工芸など体感・体験できる体制を整えます。</small>			
	基本施策	6-01	観光					
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	特定非営利活動法人からくりおもちゃ塾奈良町		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成24年度				
令和元年度事業費	予算額	7,020		決算額	7,020 (単位：千円)			
事業の概要・目的	明治初期の雰囲気が残る町家の空間のなかで、からくりおもちゃを介して、訪れていただいたお年寄りや子どもたち、観光客などの世代間交流や地域間交流の場として活用することにより、ならまちの活性化及び奈良市の観光振興の拠点とするために奈良町からくりおもちゃ館を運営する。							
目標指標	指標名	入館者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	52,000	52,500	50,000	51,000	52,000
実績値			46,227	40,972	37,625	32,767		
令和元年度実施計画	地元の方と、地域に根差したより良い観光案内を行うとともに、指定管理者による自主事業の充実を図る。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少してきた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	3	3
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	3
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	3
評価点			33	33

総合点	66
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	からくりおもちゃを通して、日本のみならず海外の方へ日本の文化を紹介出来た。	最近はまだ「協働」を意識せずに互いに取り組むことができるようになった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	新規の取組に期待したい。	複数人による対話が、年に1回1時間でも持てれば良いと思う。

No.	70	事業名	旧鍋屋交番きたまち案内所					
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向 ① 観光資源・施設の整備・充実 <small>歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイレや案内看板等の環境整備を図ります。</small>			
	基本施策	6-01	観光					
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	鍋屋連絡所の保存・活用と“奈良きたまち”のまちづくりを考える会		協働事業の実施手法	委託				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成24年度				
令和元年度事業費	予算額	210		決算額	162 (単位：千円)			
事業の概要・目的	奈良町のきたまち地域を訪れる観光客の利便を図るとともに、地域の活性化による観光振興に寄与することを目的として、まちかど観光案内所を設置する。							
目標指標	指標名	来館者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	10,000	10,500	6,000	6,500	7,000
実績値	5,999	4,716	4,814	4,388				
令和元年度実施計画	案内所の運営にあたっては、委託先適宜情報交換や協議の場を設けながら実施する。また、きたまち活性化イベントを共同で開催し、きたまち地域の魅力を発信し、施設の認知度を高める。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少してきた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
評価点			43	44

総合点	87
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	お互いのコミュニケーションが良く取れていて、うまく運営している。地域の活性化にも寄与している。	当会で開催しているイベントに共催頂き市民だよりに案内を掲載いただいたり、案内所の消耗品を購入いただいたりして助けていただいている。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	観光案内所として更なる進化、発展に期待したい。	当会のイベントへの共催、市民だよりへの掲載や備品の購入など助けていただいているが、物品等へのさらなる支援をお願いしたい。また、新にぎわい構想実現に向け引き続きご努力願いたい。

No.	71	事業名	史跡・名勝をめぐるウェルカムサービス～知って奈良とびらガイド～					
部名	観光経済部		課名	観光戦略課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向	②	観光客受け入れ体制の充実	
	基本施策	6-01	観光			事業者・市民が奈良の歴史・文化を学び、奈良の魅力の理解の下、もてなしの心の醸成により、来訪者への充実したサービスの提供を図ります。		
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	なら・観光ボランティアガイドの会		協働事業の実施手法	補助・助成				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成25年度				
令和元年度事業費	予算額	100		決算額	100		(単位：千円)	
事業の概要・目的	奈良市へ転入の届け出を行った世帯に、無料でなら・観光ボランティアガイドの会による観光案内を行う。							
目標指標	指標名	期間中の来訪者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	50	50	50	50	50
実績値	11	10	3	18				
令和元年度取組内容	転入届出窓口等で、積極的なPR活動に努める。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。							
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも書かない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						4	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						4	4
評価点							37	37	

総合点	74
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	本市で暮らしはじめる方々に、奈良を知っていただき、地域の魅力を掘り起こしていただきながら、これからともに育んでいただくための第一歩として「もてなしの心」で迎えることができた。	本制度を利用されたお客様は、他の市にはない制度で、奈良を知るうえで大変良かったとの声が寄せられている。今後とも積極的に利用推進について取り組んでいく。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	参加者の満足度は高いものの、認知度が低く、参加者が伸び悩んでいる。ポスター掲示に加え、SNS等で新たな周知方法を検討。	今年度は、市役所市民課の窓口でポスター掲示を行い、市のSNSで発信することで、本制度の認知度アップに取り組んだ。今後はマスコミ等との連携を深め、さらに積極的な周知活動に取り組むこととしたい。

No.	72	事業名	奈良市きたまち転害門観光案内所運営事業					
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向	① 観光資源・施設の整備・充実 <small>歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイレや案内看板等の環境整備を図ります。</small>		
	基本施策	6-01	観光					
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	転害門前旧銀行跡建物活用協議会		協働事業の実施手法	委託				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成25年度				
令和元年度事業費	予算額	1,670		決算額	1,649 (単位：千円)			
事業の概要・目的	旧南都銀行手貝支店である奈良市所有の町家を改修し地域の団体と協働して、きたまちな観光客に対する観光案内や、観光資源の発掘及び調査研究、地域活性化の拠点などとして多目的に利用できる観光案内所として運営する。							
目標指標	指標名	来館者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	10,000	10,500	10,000	10,100	10,200
実績値	9,353	8,103	7,381	7,433				
令和元年度実施計画	案内所の運営にあたっては、委託先と適宜情報交換や協議の場を設けながら実施する。また、きたまち活性化イベントを共同で開催し、きたまち地域の魅力を発信し、施設の認知度を高める。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 ← ← → → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少 どちらとも あまり でき し も言え りで な できた ない きな かつ かつ	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					4	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。					3	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					3	3
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					3	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					3	3
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					3	4
評価点						29	33	

総合点	62
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	きたまちな観光案内所の中心として運営出来た。多くの観光客への対応もうまく出来た。	奈良きたまちが新たな奈良の観光地として知れ渡り、他府県からわざわざ散策に来られる方々が増えた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	人材等について多くの課題があるが、お互いの意見を尊重し運営して欲しい。無いものをどうやって、カバーしていくかの知恵がほしい。	ボランティアスタッフが高齢化・固定化しているので、早急に人材確保・育成への更なる工夫が必要である。担当課は、協働というよりも管理委託先という意識が強く、依頼者と実行者というような関係が伺える。もっと現場に足を運び、現場の声を聞く姿勢が欲しい。ただ単なる観光案内所としてだけでなく、奈良町における市側の思いや計画、今後の取り組みについて意見交換の場を設け、地域の魅力の発信基地となるよう協働して取り組める体制を確立して欲しい。

No.	73	事業名	奈良町南観光案内所運営管理					
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向 ① 観光資源・施設の整備・充実 <small>歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイレや案内看板等の環境整備を図ります。</small>			
	基本施策	6-01	観光					
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	有限会社くるみの木		協働事業の実施手法	委託				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成27年度				
令和元年度事業費	予算額	28,343		決算額	28,309 (単位：千円)			
事業の概要・目的	案内所の運営にあたっては、委託先と適宜情報交換や協議の場を設けながら実施し、奈良町の魅力を国内外に発信しながら、奈良町南観光案内所への誘客を促進する。また、駐車場の運営にあたっては、施設の安全性や利便性の向上に努めながら、案内所と一体的な活用を行う。							
目標指標	指標名	来館者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	50,000	50,500	51,000	51,500	52,000
実績値	30,522	31,855	24,611	24,422				
令和元年度実施計画	案内所の運営にあたっては、委託先と適宜情報交換や協議の場を設けながら実施し、奈良町の魅力を国内外に発信しながら、奈良町南観光案内所への誘客を促進する。また、駐車場の運営にあたっては、施設の安全性や利便性の向上に努めながら、案内所と一体的な活用を行う。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも書えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
評価点			44	45

総合点	89
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	民間ならではの手法で運営・経営を行うことで、行政では出来ない事業が出来た、	市民の皆様喜んでいただく施設であることを意識することができ、サービスの内容を計画しやすかった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後の運営も民間ならではの手法で上手く他の施設の見本となるように運営してほしい。	市民の皆様が何を求めておられるかという情報をいただき、各種報告内容の改善の必要を課題として捉えることができた。今後も、行政目線でのアドバイスをいただきたい。

No.	74	事業名	奈良町にぎわいの家運営管理					
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向 ① 観光資源・施設の整備・充実 昔ながらの暮らしや伝統文化が体感・体験できる体制を整えます。			
	基本施策	6-01	観光					
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	奈良町にぎわいの家管理共同体		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成27年度				
令和元年度事業費	予算額	16,673		決算額	16,669 (単位：千円)			
事業の概要・目的	奈良町を訪れる観光客、奈良町に暮らす住民、奈良にゆかりを持つ多くの人々が集う、奈良町に息づく歴史文化の発信拠点、にぎわい創出の拠点とするために奈良町にぎわいの家を運営する。							
目標指標	指標名	来館者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	100,000	105,000	97,500	98,500	100,000
実績値	96,018	93,247	93,006	89,306				
令和元年度実施計画	指定管理者と定期的に情報共有を行うことで、より良い施設運営を行う。また、奈良市から積極的に観光情報を提供し、地元の方と、地域に根差したより良い観光案内を行うとともに、指定管理者による自主事業の充実を図る。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少してきた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点			37	38

総合点	75
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	数多くのイベント等による発信により、奈良町にぎわいの家のみならず、奈良町の発信が出来た。	奈良町にぎわい課/奈良市の情報やネットワークを通して、奈良町の生活文化を奈良町にぎわいの家の手法で表現し、来館者に発信できた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	引き続き、いろんな手法で発信し続けてほしい。	奈良町の活性化と奈良町家保存のためのアイデアを出し合い、協働して対策していく関係をいっそう盛り上げたい。

No.	75	事業名	奈良市京終駅観光案内所					
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向 ① 観光資源・施設の整備・充実 <small>歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイレや案内看板等の環境整備を図ります。</small>			
	基本施策	6-01	観光					
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	特定非営利活動法人 京終		協働事業の実施手法	委託				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成30年度				
令和元年度事業費	予算額	2,121		決算額	2,118 (単位：千円)			
事業の概要・目的	「駅機能」に魅力ある空間の演出を施すとともに、集客や、賑わいを創出する「観光案内機能」と「コミュニティ機能」を付加する事により、訪れる人々と、地域に暮らす人々が交わることで、賑わいが創出される拠点としての場作りを目指す。							
目標指標	指標名	来館者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	-	-	500	12,000	12,000
実績値			-	-	489	6,177		
令和元年度実施計画	案内所の運営にあたっては、委託先と適宜情報交換や協議の場を設けながら実施し、奈良町の魅力を国内外に発信するとともに、地域の活性化に繋がる場としての役割を目指す。また、トイレ及び駐輪場の運営にあたっては、施設の安全性や利便性の向上に努めながら、案内所と一体的な活用を行う。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	3	3
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	3	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点			34	33

総合点	67
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	京終駅という特殊な環境の中での運営であったが、お互いの情報交換や協力をすることで、うまく運営出来た。	京終がリノベーションされたなかで、お互いをパートナーとして認め合った上で連携し、信頼関係と協力関係を築き、単独の主体では生み出せないような効果を発揮し、良い結果になったと思われる
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後の課題は、集客数を増やす事と、地元との連携を上手く行っていく事になる。情報の発信と地域活性化に寄与してほしい。	京終を委託させていただいたなかで、当初(図面上)では問題とは解らないことが、運営する中で一部困ることもでてきた。ただ、ハード面の事は打ち合わせを重ね、修繕をふまえながら、対応をしていくことに。ただこれからも前向きな打ち合わせを重ね、ハードソフト面含め、今後も京終の魅力を伝えるようにしていきたい。

No.	76	事業名	奈良工芸フェスティバル					
部名	観光経済部		課名	産業政策課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		③ 産業の支援と地域経済の活性化 奈良の伝統工芸と伝統産業の継承・発展のため、制作体験やイベント、インターネットを通じて情報発信を行い、工芸品等の取組拡大に努めます。また、緊急の課題である伝統工芸の後継者問題については、研修制度等により育成を支援します。			
	基本施策	6-04	商工・サービス業					
	施策	6-04-01	商工・サービス業の振興					
相手方の名称	工芸作家		協働事業の実施手法	共催				
実施の時期	年1回		事業開始年度	平成元年度				
令和元年度事業費	予算額	543		決算額	532 (単位：千円)			
事業の概要・目的	毎年、秋期の正倉院展期間中に合わせて、なら工芸館では「奈良工芸フェスティバル」を開催し、一刀彫・赤膚焼等の工芸作品の特別展示、制作実演・体験などを通じて、奈良工芸に対する理解と認識を深める。また工芸品を期間中、特別販売することで工芸の振興発展に努める。							
目標指標	指標名	来場者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	6,300	6,350	6,400	6,450	6,500
実績値			5,453	5,515	5,774	6,417		
令和元年度実施計画	これまでの催しの改善点などを工芸フェスティバル実行委員会と市職員との間で共有し、令和初の工芸フェスティバルにふさわしい充実した内容にする。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない できなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	3	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	3	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	5
評価点			36	43

総合点	79
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	例年の事業内容に加え、奈良教育大学の研究発表の場を設けることで、産学官の連携を図ることができた。こうした取り組みにより、普段は工芸品になじみの薄い世代に対して、工芸館や伝統工芸の周知を図ることができた。	令和元年度も奈良市協力による地酒試飲販売、珠光茶会実行委員会協力でお茶会を開催することにより来館者に工芸品をより身近に感じてもらえる機会を提供できた。
協働することで見た課題や協働相手に対して求めることなど	実施内容が前年の踏襲になっており、新鮮さがなくなっている。従来のやり方を踏襲するだけでなく、それぞれの立場から意見やアイデアを出し合い、新しい取組を交えた工芸フェスティバルの形を模索していきたい。	奈良市との協働によって普段とは違った見せ方ができていると感じる。コロナウイルスの影響下、運営面、施設面他今まで通りに出来るとは思えない。協働相手である奈良市と共に考えていく必要性を感じる。

No.	77	事業名	「奈良しみんだより」の英訳					
部名	総合政策部		課名	秘書広報課				
総合計画上の位置付け	章	第7章	基本構想の推進		展開方向	①	市政情報の提供	
	基本施策	7-01	市政情報の発信・共有			市政情報入手についての市民ニーズの把握に努めるとともに、しみんだよりやホームページなど多様な広報手段を利用し、それぞれの特色を生かして連携することで、有効な情報発信を行います。		
	施策	7-01-01	開かれた市政の推進					
相手方の名称	奈良S.G.Gクラブ			協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	毎月			事業開始年度	-			
令和元年度事業費	予算額	120		決算額	120		(単位：千円)	
事業の概要・目的	日本語が分からない外国籍市民等に市政情報をお知らせする。							
目標指標	指標名	配置部数						
	単位	部/月	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	190	190	200	200	200
実績値	198	195	195	200				
令和元年度実施計画	行政は「奈良しみんだより」の掲載情報・資料を提供する。また印刷用紙を支給する。完成した英語版しみんだよりのPDFを市ホームページに掲載する。活動団体は「奈良しみんだより」の英訳、英語版の印刷・編綴、各施設への配置、PDFでの市への提供を行う。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	5	4	3	2	1	対等性	相互理解		
← ← → → ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少 多 でき した した かった なかった できなかった						お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5	
						お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5	
						(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5	
						(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			
						(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	5	
						(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			
						目的共有 協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5	
						相互補完 お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	4	
						公開 協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5	
						相互変革 協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5	
					期限設定 事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	5		
					評価点	44	44		

総合点	88
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	外国籍市民等が増加する中、市政情報の需要も高まり、しみんだよりの英語版は必須となっている。ごみの出し方等の生活に必須の情報や、市役所での各種手続き案内など、外国語対応を急ぐ市政情報について、しみんだよりで毎月のお知らせを精度の高い英語翻訳で行えることは、日本語が分からない住民が安心して市で暮らすための一助となっている。さらには外国籍市民にもまちづくりへの参画を幅広く促すことにも繋がるため、今後とも力を入れて取り組んでいきたい事業である。	当クラブ翻訳委員会のメンバーは多岐にわたる分野で活躍した、又は現在活躍中の人々で作業を行っています。翻訳作業は27年以上一度も途絶えたことはありません。文化・習慣が異なるところで生活する外国人への重要な情報源となっています。また、在日外国人から大変助かった、と言う話や、ネイティブチェックを確実にしているために、英語の表現が良く出来ていて、読んでいても違和感がない、との意見も頂きました。行政からは、PDFにての原稿配信を頂き、作業時間が有効に使えるようになっていきます。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	英訳する記事の選別については、外国人のニーズを一番よく把握しているSGGに一任する体制を維持する予定だが、場合によってはこちらから英訳してほしい記事を指定することも今後考えられる。今回、ある記事を英訳してほしいとの依頼が所管課から寄せられた。記事の所管課が英訳を依頼できる仕組みを作る等、検討が必要な部分である。	日本語原稿の配信がPDFで頂けるので、訳者への配信がスムーズかつ早く出来ていますが、その後プル校正、ネイティブチェック、修正および清書を経て、全体の編集、印刷、配送となりますが、どの工程も最短で行っているのが現状ですが、常に作業工程の確認と見直しをしながら改善しております。印刷は2カ所で行っています。市民だよりに出てくる各部署の英語名称を確認しながら翻訳していますが、統一名称を提供して頂けるとありがたいです。

No.	78	事業名	まちづくり振興事業「月ヶ瀬地域振興協議会」					
部名	市民部		課名	月ヶ瀬行政センター 地域振興課				
総合計画上の位置付け	章	第7章	基本構想の推進		展開方向	② 市政に対する提言、要望等の反映 「新市建設計画」を着実に実施し、月ヶ瀬地域振興協議会の活動を通して、市政に対する提言、要望等をまちづくりに反映させます。		
	基本施策	7-01	市政情報の発信・共有					
	施策	7-01-01	開かれた市政の推進					
相手方の名称	各種団体・自治会等		協働事業の実施手法	実行委員会・協議会				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成17年度				
令和元年度事業費	予算額	1,700		決算額	1,700 (単位：千円)			
事業の概要・目的	月ヶ瀬地域における将来のまちづくりについて協議を行うほか、地域の振興等を図り、もって奈良市の発展に資する。							
目標指標	指標名	会議の開催回数						
	単位	回	年度	H28	H29	H30	R1	R2
		目標値	24	24	24	24	24	
実績値		13	14	14	12			
令和元年度実施計画	行政として、イベント補助金に交付、市・県等関係課及び機関等への連絡調整、協議会事務局として支援を行う。活動団体としては、地域のまちづくりに関することや新市建設計画に伴う要望活動、進捗状況に関することの会議の開催、地域伝統文化の保存及び振興に関すること、地域イベント等の企画及び実施に関すること(夏まつり、スポーツフェスティバル、体育祭、マラソン大会)等を行う。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも書えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					4	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。					4	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。					4	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。					4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					4	4
評価点						37	37	

総合点	74
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	地域の振興を目的として地域尾の団体が連携し、事業を企画、実施し、自主運営による地域コミュニティの形成ができた。	地域イベントについては、地域団体や住民が一体となっており、活性化に向けての取組みができた。
協働することで見た課題や協働相手に対して求めることなど	地域組織としての自主的な活動の充実強化のため、リーダー、後継者の育成が不可欠であり、自立化を進め行政との役割分担を明確化し、今後の組織の在り方、方向性について具体的な検討の場を持ち、話し合っていく必要がある。	自立化に向け組織の在り方等話し合っていく必要があるため引き続き協働を図っていきたい。

No.	79	事業名	都祁まちづくり協議会					
部名	市民部		課名	都祁行政センター地域振興課				
総合計画上の位置付け	章	第7章	基本構想の推進		② 市政に対する提言、要望等の反映 <small>新市建設計画を推進するため、都祁まちづくり協議会の活動を通じて、市政に対する提言、要望等をならづくりに反映させます。</small>			
	基本施策	7-01	市政情報の発信・共有					
	施策	7-01-01	開かれた市政の推進					
相手方の名称	地域住民(都祁まちづくり協議会)		協働事業の実施手法	補助・助成				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成17年度				
令和元年度事業費	予算額	3,500		決算額	3,500 (単位：千円)			
事業の概要・目的	1. 住民要望の取りまとめ及び新市建設計画の進捗に関する事。2. 地域間交流事業(農業体験交流事業)3. 地域振興事業(都祁高原マラソン大会)							
目標指標	指標名	利用者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	1,600	1,620	1,640	1,660	1,680
実績値	1,487	1,596	1,577	1,652				
令和元年度取組内容	都祁地域の自治会・自治連合会へ協力を呼びかけ、住民要望の取りまとめを行った。地域交流事業として、農業体験交流事業を実施、4月に参加者を募集し、5月から茶摘体験、スズラン・ホテル自由観賞、ブルーベリー採り、収穫体験、吊るし柿・しめ縄作り体験と1年をとおして農業体験をしてもらい地域間交流を行った。まちづくり活動においても地域振興事業の一環として市内外からの参観者を迎え11月に都祁高原マラソン大会を開催。都祁の名を全国各地に発信した。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ できた 少しでもできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	3
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	3	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	3	3
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	3	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	—	—
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	4
評価点			30	31

総合点	61
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	一体的なまちづくりのための新市建設計画の推進や、農業体験交流や都祁高原マラソン大会を開催することで、地域の振興と地域間交流を行うことができ、都祁地域の魅力を発信することができた。	都祁地域のため、互いの特性を発揮し、各種会議等での情報共有が図れ地域の活性化につなげることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	自主的な活動の充実と、強化のためリーダーの養成と後継者の育成。	行政との関わりや、協働における役割分担の明確化。

No.	80	事業名	地域ミーティング					
部名	市民部		課名	地域づくり推進課				
総合計画上の位置付け	章	第7章	基本構想の推進					
	基本施策	7-02	市民参画・協働					
	施策	7-02-01	市民との協働による市政運営					
			展開方向	① 市民参画及び協働の推進 <small>市長が地域に向いて地域活動に取り組み各種団体と対話を行い、地域の課題に対する認識を共有し、協働して解決に向けて考える場として、「地域ミーティング」を開催し、地域と行政が協働して、住みよいまちづくりの実現のために取り組みます。</small>				
相手方の名称	奈良市自治連合会		協働事業の実施手法	共催				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成25年度				
令和元年度事業費	予算額	0	決算額	0 (単位：千円)				
事業の概要・目的	市長が直接地域に出向き、地域活動に取り組む各種団体の役員と対話を行う中で、地域課題に対する認識を共有し、地域・行政が協働して解決に向けて考えていくことを目的に、平成25年10月から「地域ミーティング」を実施。平成30年11月からは、より多くの地区で実施できるよう、中学校区単位で実施している。 (平成29年12月～平成30年7月は、奈良市自治連合会のブロックを単位として、市長が地域を訪れ、地区の主要四団体の役員との対話を通して情報共有と一層のパートナーシップの強化を図ることを目的に「地域の未来についての懇談会」として開催)							
目標指標	指標名	開催地区数						
	単位	地区 (R1～は中学校区)	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	30	35	40	15	17
実績値	23	25	31	8				
令和元年度実施計画	中学校区ごとに開催調整を行い、順次地域ミーティングを実施した。なお、開催にあたっては、各連合会から事前にテーマを提出してもらい、当日、そのテーマに沿って説明、討論を行った。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価	
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			5
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも書えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4	
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	4	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4		
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	4	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4	
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4	
	評価点			39	39

総合点	78
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	地域課題について地域・行政双方が認識を共有するとともに、その課題解決が進められた。	その地域ごとに抱えている課題について地域・行政が共有し、課題解決が図られた。奈良市自治連合会として取り組まなければならない課題も見え、地域自治協議会設立の機運も高まった。
協働することで見た課題や協働相手に対して求めることなど	開催方法については随時見直しを行いながら、より多くの地区で実施できるよう進めていきたい。	各地域と行政が情報や意見交換等交流の場を持ち、対話を通して情報共有と一層のパートナーシップの強化を図ることが必要である。

No.	81	事業名	HUG ² (はぐはぐ)祭り	
部名	市民部		課名	地域づくり推進課
総合計画上の位置付け	章	第7章	基本構想の推進	
	基本施策	7-02	市民参画・協働	
	施策	7-02-01	市民との協働による市政運営	
			展開方向	① 市民参画及び協働の推進 <small>市民参画と協働によるまちづくりを総合的・計画的に推進するために、本市で実施し、又はこれから実施しようとする協働事業を実施計画として策定した「奈良市市民参画及び協働によるまちづくり推進計画」に基づき、市民参画と協働を進めていきます。</small>
相手方の名称	市民公益活動団体		協働事業の実施手法	事業協力
実施の時期	5月～12月		事業開始年度	平成26年度
令和元年度事業費	予算額	49	決算額	49 (単位：千円)
事業の概要・目的	市民に、ボランティアや市民公益活動団体の様々な活動について知っていただくとともに、その魅力を伝え、ともに活動したり支援したりするきっかけをつくり出すこと、また市民公益活動団体の情報交換や交流の機会創出を目的に、ボランティアインフォメーションセンターにおいて、HUG ² (はぐはぐ)祭りを開催する。			
目標指標	指標名	HUG ² 祭り参加者数		
	単位	1,000人	年度	H28 H29 H30 R1 R2
		目標値	660	695
実績値	770	744	1,146	1,296
令和元年度実施計画	HUG ² (はぐはぐ)のサポーター団体を募集し、5月よりサポーターズ会議を月に1回開催し、市民公益活動団体と職員で協議を重ねていく。企画の段階から準備、祭り当日の運営及び進行も市民公益活動団体と職員と協働で行い開催する。			
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由		



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しかつた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点			41	41

総合点	82
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	行政・団体が互いに得意分野を發揮し、また、不得意分野を補い合うことで、相乗効果を生み出し、イベントの成功につながった。	<ul style="list-style-type: none"> ・年々にぎやかになっていると感じた。ボランティア団体のPRの機会となって良かった。 ・たくさん子どもたちの来場があった。今後も、親子で来て「楽しくためになる」ようなイベントづくりを推進してほしい。 ・ボランティア団体が一堂に会すいい機会だと思う。 ・他の団体の方々とのつながりができ、よかった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	団体の活動を、より効果的に市民に知ってもらうための方法を探り、また、団体・市民がより気軽に参加できるよう、祭りの日程や内容、役割分担などを検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者を増やすことばかりでなく、各団体の活動をより知ってもらうための工夫が必要。 ・イベントを通じて、普段個々に活動している団体相互の交流を図り、団体同士の協働を生み出す。

No.	82	事業名	租税教室の開催(講師の派遣)					
部名	総務部		課名	市民税課				
総合計画上の位置付け	章	第7章	基本構想の推進		展開方向 ① 健全な財政運営 財源確保への取組を強化し、財政基盤の安定化を図ります。			
	基本施策	7-04	行財政運営					
	施策	7-04-01	効率的な行財政運営					
相手方の名称	奈良税務署管内租税教育推進協議会		協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	11月～1月頃		事業開始年度	平成20年度				
令和元年度事業費	予算額	0		決算額	0 (単位：千円)			
事業の概要・目的	国、奈良県、県内市町村、学校教育機関及び関係民間団体等で組織する奈良県租税教育推進連絡協議会事業の一環として、奈良税務署管内租税教育推進協議会が開催する租税教室に職員を講師として派遣する。							
目標指標	指標名	市職員の講師派遣を継続して行う						
	単位	回	年度	H28	H29	H30	R1	R2
			目標値	1	1	3	3	3
実績値	2	3	4	3				
令和元年度実施計画	講師の派遣を希望する小・中学校、高等学校、専修学校と調整しながら、派遣職員の育成を行い、事業を実施する。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和元年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	4
評価点			43	42

総合点	85
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	職員を講師として派遣し、次代を担う市内の児童・生徒に、税の仕組み、役割、機能等の租税に関する知識を持ってもらうことで、納税意識の向上を図り、将来的な自主財源の確保につながった。協議会が派遣先の募集等を取りまとめ、各協働先との調整を行うことで、事業をより効率的に進められた。	市職員が租税教室の講師を協働することにより、学校側が希望する日程で租税教室を開催することができた。
協働することで見た課題や協働相手に対して求めることなど	開催日程が繁忙期と重なると、事前に十分に準備ができない場合がある。また、税制改正等により職員一人当たりの事務量が増え、派遣する人員の確保が困難になりつつある。	学習指導要領の改訂に伴い、グループワークを取り入れた生徒参加型の授業のニーズが高くなってきており、租税教室の授業内容の充実と、講師の養成が課題である。